

論文

LP 集『沖縄音楽総攬』（1965 年）と沖縄の民俗芸能 —収録ジャンルと文化財指定をめぐって—

The Okinawa Ongaku Sōran LPs (“A Survey of Okinawan Music,” 1965) and Okinawan Folk Performing Arts:
The Genres They Contain and Their Designation as a Cultural Property

高橋美樹（高知大学教育学部・音楽学研究室）

Miki TAKAHASHI

Laboratory of Musicology, Faculty of Education, Kochi University, Kochi, Japan

ABSTRACT

This paper discusses the production process of the sixteen-LP compilation Okinawa ongaku sōran (“A Survey of Okinawan Music,” Columbia Records, 1965) and the genres of music that it contains. It also examines the relationship between folk performing arts and the policies of the Government of the Ryukyu Islands (an autonomous organization of Okinawan residents under American military control from 1952 to 1972) and the Japanese mainland with regard to the protection of cultural properties. It concludes with the following five points: First, the compilation was produced jointly by the Tokyo National Research Institute for Cultural Properties and Columbia Records. On-site recording in Okinawa Prefecture took place over two sessions between 1964 and 1965. Stereo recording methods were used in these sessions. Second, a classification of the compilation's 279 tracks based on genre revealed that the predominant genre was festival music, with 83 tracks. A classification based on the location of recording further showed that more tracks were recorded in the Yaeyama Islands than in the Okinawa Islands and the Miyako Islands. In fact, the greatest number of tracks were recorded there: 156 tracks, or more than half (57%). Third, the most significant feature of the compilation is its inclusion of many songs that are sung and danced to in folk performing art spaces. Out of the 279 tracks, 46 (16.5%) fit the category of folk performing arts. Fourth, among the folk arts recorded in the compilation, kumi odori and Ryukyuan classical music were later designated by Japan as important intangible cultural properties (in 1972 and 2000, respectively). Fifth, folk performing arts researcher MISUMI Haruo, who wrote the compilation's liner notes, served as producer, organizer, and supervisor of four Ryukyuan folk art performances at the National Theatre of Japan between 1967 and 1974. He also gathered young Okinawan dancers and actors to form the Okinawa Kabudan troupe. He led this troupe to success in Japan, the Soviet Union, and Europe. For these reasons, Misumi is considered an important figure whose research findings in Okinawan folk performing arts have influenced both domestic and international stage performances.

はじめに

本研究の目的は、LP16 枚集『沖縄音楽総攬』（1965 年 11 月：日本コロムビア・レコード：32000 円）の制作経緯を整理し、収録音源のジャンルの傾向などを明らかにすることである。この LP 集の最大の特徴は、民俗芸能を多数収録したことである。そこで、琉球政府（1952-1972 年：米軍統治下の沖縄住民側の自治機関）及び日本本土における文化財保護政策と民俗芸能の関連性について整理する。なお、LP 集は日本コロムビア・レコードの森垣二郎が企画・監修し、東京文化財研究所の三隅治雄が編集・解説した。昭和 40 年度第 20 回芸術祭奨励賞を受賞している。

LP 集が発売された 1965 年は、沖縄が本土復帰（1972 年）する 7 年前にあたる。沖縄へ渡航するにはパスポートを持参する必要があった。収録地も沖縄本島、宮古諸島、八重山諸島と広範囲に亘っている。さらに、収録ジャンルは組踊、琉球古典音楽（野村流・安富祖流・湛水流）、古謡、口説、沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島の民謡、わらべうた、民俗芸能（臼太鼓・エイサー他）であり、1965 年当時現存した沖縄音楽・芸能をほぼ網羅していると言っても過言ではない。そして、これほど広範囲で、なおかつ緻密な調査を経て録音した商業レコードは、この LP 集以後発売されていない。

LP16 枚を制作するには日本コロムビア・レコード（以下、コロムビア）のバックアップのみならず、沖縄内の人的ネットワークと研究者の存在が必要不可欠である。しかし、1965 年当時、音楽学の分野で発表された沖縄音楽の研究成果はほんの僅かであった。

一方、民俗芸能の研究者は既に沖縄のフィールド・ワークを開始し、確実に成果を上げていた。日本本土の民俗芸能を研究対象とする研究者が、なぜ沖縄の民俗芸能に着目し、精力的にフィールド・ワークを展開したのだろうか。その点を解明するため、LP 制作の中心人物である三隅治雄に注目し、沖縄芸能研究に着手した経緯とその成果を辿る。さらに、1965 年 LP 集発売以後、三隅に関わった沖縄芸能・舞踊公演についてまとめる。

また、LP 集はその後、CD『甦る沖縄の歌ごえ』（1993 年）、CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓』（2000 年・2008 年）、CD『沖縄音楽総攬』（2007 年）、CD『かなす』シリーズ（2018 年）により復刻された。CD『沖縄音楽総攬』では LP 集の一部を除き、音源の聴取が可能である。復刻 CD の詳細は 2.2 で述べる。

なお、引用文の旧字体・旧仮名遣いは新字体・新仮名遣いに改めた。□は判読不明文字を示す。掲載する写真 1～12 は沖縄県立芸術大学附属図書館所蔵であり、筆者が 2014 年 10 月 21 日に撮影したものである。

1. 1965 年 LP 集『沖縄音楽総攬』制作と現地録音

本節では、LP 集制作の目的、沖縄県における現地録音（全 2 回）の実態を整理する。

1.1 LP 集制作の目的

この LP 集は東京文化財研究所とコロムビアのタイアップにより制作・発売された。この点について、三隅は次のように述べている。

文化財研究所の方でも沖縄の民俗音楽のレコード化は長年の念願だったが予算の都合でなかなか実現できなかった。幸い、コロムビアが全面的に協力してくれることになり、森垣さんも大変はりきっておられる（1964 年 11 月 4 日『沖縄タイムス』7）。

東京文化財研究所が希望していた沖縄音楽のレコード化について、コロムビアが制作費や録音技術を提供した結果、実現したといえる。

一方、企画・監修した森垣二郎は第 1 回目の現地録音終了後、次のように語った。

こんどの仕事で感じたことは、たとえば石垣島、西表島、宮古諸島など、文化が遅れている地方ではその地の民俗音楽芸能が古代からそのままの形で残っていた。変形しない前に保存し得たことは大へん意義があった。もともとこの種の仕事は沖縄地元の人たちがやるべきものだが、なかなか困難なところがあるので、私たちが行なうことになった（下線部筆者）（1964 年 11 月 26 日『琉球新報』5）。

本来、現地の音楽・芸能は地元の人々の手で保存・収録するべきものだが、沖縄では困難な点があるため、コロムビアの仕事として実施した。「困難なところ」の意味する内容は不明である。だが、選曲や人選が島・集落コミュニティに関わる点、制作費や録音施設・機材の点において、レコード制作を沖縄独自で進めるのは難しかったと推察できる。

また、三隅は LP 解説書の中で、制作意図と刊行の意義を次のように記した。

われわれが、このたび「沖縄音楽総攬」の制作を意図したのも、実は、こうした沖縄の芸能の持つプリミティブな感動の魅力と、音楽に生活を賭けた島びとの激しい情熱の力にひかれたことに一つの動機があった。“感動が歌をつくる”“芸術が国を救う”とはよく人々のいうところだが、それが単なる理念ではなく、実際の生活の上にあらわれている例は、沖縄の音楽以外、そうざらには見られない。いまは世界の芸術音楽が固定化の極限に達して、芸術ほんらいの感動の恢復と、目的の再確認に狂奔している時代である。その点で、この「沖縄音楽総攬」を刊行する意義は大きいと思う。…中略…昨年来、われわれが南島に渡り、沖縄・宮古・八重山の各群島をくわしく踏査して、そこにある

歴大な音楽を採集し、これを一篇にまとめて刊行することになったのも、一に、沖縄の音楽の持つ価値と意義を痛感し、かつその音楽がいまや寸滅の淵に落ち込もうとしていることを憂えたからにほかならぬ（下線部筆者）（三隅 1965:24）。

沖縄音楽の価値と意義を痛感すると同時に、それらが消滅の危機に晒されている現状を知り得たことが、LP 集制作の要因であった。だが、1965 年当時、消滅の危機に晒されている地域は沖縄だけではない。なぜ、沖縄音楽の LP 集制作が必要だったのだろうか。

1.2 2 回の沖縄現地録音(1964 年～1965 年)

第 1 回現地録音は 1964 年 11 月 7 日～28 日、第 2 回現地録音は 1965 年 6 月 29 日～7 月 16 日に実施された。収録には琉球政府・文化財保護委員会(3 参照)の新城徳祐が全面的に協力した。なお、現地録音の動向については、1964 年 11 月 4 日～1965 年 11 月 18 日『沖縄タイムス』、1964 年 11 月 7 日～28 日『琉球新報』の各記事を基本情報とした。なお、記事の詳細は参考文献を参照されたい。

第 1 回現地録音のために、本土から来沖したのは下記 5 名であった。

- 森垣二郎(コロムビア邦楽部・常任顧問)
- 森垣ナミ(森垣二郎の妻)
- 三隅治雄(東京国立文化財研究所芸能部)
- 小林喜久之助(コロムビア録音技術課・課長)
- 日暮怜司(コロムビア邦楽部企画室・ディレクター)

〔第 1 回現地録音〕の日程は以下の通りである。

【1964 年 11 月 7 日】午後 6 時 15 分、一行 5 名は日航機で那覇空港に到着

【同年 11 月 8 日】沖縄本島で古典音楽の録音

【同年 11 月 9 日】八重山諸島(石垣島、黒島、西表島、竹富島他)で録音

【同年 11 月 16 日】宮古諸島で録音

【同年 11 月 18 日】沖縄本島へ戻り、録音開始

【同年 11 月 25 日】ラジオ沖縄のスタジオで録音。東風平村富盛のウスデーク、首里の古謡、わらべ歌を録音。三隅が帰京

【同年 11 月 28 日】一行 4 名は那覇発の日航機で帰京

収録は「わらべ歌、子守り歌、ハーリーや盆踊りなどの祭り、行事の歌、祇祭、神事の祝司、作業歌、雨ごいの歌など庶民の生活に密着した素朴な歌から、昔の王族、士族階級と縁の深かった『組踊り』などの古典音楽まで」(1965 年 7 月 16 日『沖縄タイムス』4)を網羅した。「収録した民謡は沖縄の 400 年前から現

在にいたるまでのもので、童謡やユンタなども含めてざっと 500 曲、時間にして 35 時間分もある」(1964 年 11 月 29 日『沖縄タイムス』11)。さらに、森垣二郎は「本土のどの県よりも民謡の多い島である。あと 150 から 200 ぐらい収録できず、残っているが遅くとも来年までには全部収録したい」(1964 年 11 月 29 日『沖縄タイムス』11)と述べた。

その後、未収録の音源を録音するため、1965 年 6 月 29 日～7 月 16 日に第 2 回現地録音が実施された。第 2 回現地録音のために、本土から来沖したのは下記の人々である。

- 小林喜久之助(コロムビア録音技術課・課長)
- 日暮怜司(コロムビア邦楽部企画室・ディレクター)
- 二見一夫(コロムビア録音技術課) その他(不明)

〔第 2 回現地録音〕の日程は以下の通りである。

【1965 年 6 月 29 日】那覇空港に到着

【同年 6 月 30 日】八重山諸島(与那国島、波照間島、鳩間島、新城島他)で録音

【同年 7 月 14 日】沖縄本島へ戻る。ラジオ沖縄のスタジオで録音

【同年 7 月 16 日】一行帰京

第 2 回現地録音では主に「那覇市泊のハーリーうた、名護のエイサー、八重山民謡を録音する」(1965 年 6 月 29 日『沖縄タイムス』4)予定であった。結局、「沖縄本島で 70 曲、八重山の石垣、鳩間、与那国、波照間、新城をふくめて 80 曲、あわせて約 150 曲」(1965 年 7 月 16 日『沖縄タイムス』4)の収録が実現した。

1.3 ステレオ録音方式の収録

LP 集はステレオ録音方式¹⁾で収録された。よって、モノラル・レコードではなく、「2 チャンネルまたはそれ以上のチャンネルの立体音を 1 本の音溝の両側に左右の独立したトラックとして記録したレコード」(2021「ステレオレコード」『デジタル大辞泉』)である。録音は防音機能を備えたラジオ放送局で行う「スタジオ録音」と、現地の公共・宿泊施設を活用する「フィールド録音」の 2 つの方法で行われた。

沖縄本島におけるスタジオ録音について、下記のエピソードがある。

沖縄本島ではラジオ沖縄のスタジオを借りて、北部からも歌う人たちに来てもらい、録音した。方言の歌詞を音訳し、さらに説明してもらって標準語に書きあらためた。歌の由来なども記録にとった(1965 年 7 月 16 日『沖縄タイムス』4)。

一方、離島では限られた電力や機械を駆使しながら、次のような方法で録音した。

離島では、取材用のステレオ録音機、アンペックス、マイクロフォン4つ、録音テープなど 100 キロ以上の機材を持ち回るだけでひと苦労だったようだ。スタジオがないので旅館の部屋とか民家を借りて録音した。1 番困ったのは電源の問題で、自家発電ではレコードに必要な 60 サイクルが維持できず、音程が狂うこともあった。すずめ、ヤモリ、カエル、セミ、牛などの鳴き声にも手をやいた。歌っている最中はいいとして、歌い終わった余韻にヤモリの独特の声、牛の鳴き声などがはいつたりして、そのまま録音されているという(1965 年 7 月 16 日『沖縄タイムス』4)。

また、三隅は LP 集を CD 復刻した 2007 年、次のように当時を振り返った。

63 年(筆者注:正しくは 64 年)の録音で石垣島を訪れたときには、「当時最新の録音機材を抱えての作業。でも肝心の録音施設がなく、旅館で録音した」のだとか。上空を飛行機が通過すると、テープを止めたなどの苦心談も披露(2007 年 10 月 16 日『沖縄タイムス』21)。

2. LP 集『沖縄音楽総攬』概観

本節では LP 集に収録された音源を整理し、その傾向を分析する。2.1 では解説書の内容を概観する。2.2 では LP 集発売後、復刻された CD について整理する。2.3 では全 279 トラックの音楽ジャンルを分類する。2.4 では三隅による「沖縄の民俗芸能の分布とその分類」に基づき、該当する音源を整理する。

表 1 は下記の凡例に沿って作成した LP 集『沖縄音楽総攬』のディスコグラフィである。表 1 を基本情報として、多角的な視点で分析する。レーベルは写真 1~12 を参照されたい。

【凡例】

1. データは原則的に LP 中央に貼付されたレーベル表記に従う。ただし、記載された表記に明らかな誤字、脱字が認められた場合に限り、訂正を加えた。

2. 項目は①No(通し番号)、②レコード盤面(A 面・B 面、収録順)、③大分類、④中分類、⑤小分類、⑥曲名・演目名、⑦歌手・演奏者、⑧レコード番号、⑨復刻 CD『甦る沖縄の歌ごえ』(1993 年)収録曲、⑩復刻 CD『沖縄音楽総攬』(2007 年)収録曲、⑪復刻 CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓(3)』(2008 年)収録曲、⑫復刻 CD『かなす』シリーズ(2018 年)収録曲、とする。

2.1 解説書の構成

解説書は楽曲解説の前に、以下の構成で企画を説明している。

◆推薦のことば

「沖縄の音楽について」東洋音楽学会会長・田辺尚雄

「沖縄音楽総攬を讀う」国学院大学教授文学博士・西角井正慶

「推奨のことば」琉球政府行政主席・松岡政保

「讃仰すべき歴史的偉業—沖縄の伝統音楽の集大成—」琉球政府文化財保護委員長・宮里栄輝

「推薦のことば」ラジオ沖縄取締役会長・当間重剛

「推薦のことば」沖縄タイムス会長・豊平良顕

「推奨の言葉」琉球放送株式会社社長・座安盛徳

「推薦の言葉」琉球新報社長・池宮城秀意

◆企画のことば 森垣二郎

◆編集のことば 三隅治雄

◆はじめに

推薦のことばは民族音楽・民俗芸能の研究者、琉球政府行政の長、琉球政府文化財保護委員長、ラジオ沖縄、琉球放送など放送局の代表、沖縄タイムス、琉球新報など地元新聞社の代表と、錚々たるメンバーが文章を寄せている。学術研究、行政、放送局の協力のもと、レコード制作が行われたことが伺える。特に、ラジオ沖縄取締役会長・当間重剛の「推薦のことば」は、この LP 集が極めて画期的な企画だったことを如実に示している。

このたび、日本コロムビアが、沖縄の古典音楽、民俗芸能、民謡等あらゆる曲目にわたる LP 盤を制作致しました。誠に慶賀にたえません。沖縄音楽のレコードはこれまで民謡、古典音楽に限られていましたが、このたびの日本コロムビアの LP 盤は、民俗芸能にも及び、しかも沖縄本島にとどまらず、宮古、八重山その他各離島をも含めた意欲的な音楽収録になっております(下線部筆者)(1965 年 11 月 20 日『沖縄音楽総攬』20)。

「沖縄の古典音楽、民俗芸能、民謡等あらゆる曲目にわたる LP 盤」とは、沖縄に現存する音楽・芸能をほぼ全て網羅していること、「沖縄本島にとどまらず、宮古、八重山その他各離島をも含めた意欲的な音楽収録」とは、一地域に限定せず、沖縄・宮古・八重山諸島と離島もその範囲としていたことを意味する。そして、莫大な費用と労力を必要とするこのようなレコードを、どのレコード会社もこれまで手掛けようとはしなかった。

解説書では続いて、前代未聞のレコードを制作した森垣二郎が「企画のことば」を執筆し、「沖縄全島に残る音楽を網羅した」(1965 年 11 月 20 日『沖縄音楽総攬』22)と言い切った。

次に、三隅治雄が「編集のことば」を綴り、「沖縄各島に伝わるさまざまな音楽を、各ジャンル別に集大成したのが、この一

篇である」（1965年11月20日『沖縄音楽総攬』23）と説明した。

「はじめに」では沖縄音楽の歴史と継承について詳細に解説した。その後、pp. 28～259 に亘り、LP 収録順に各演目・曲目の歌詞及び解説が続く。

解説書の「あとがき」で、三隅は次のように述べた。

本「沖縄音楽総攬」は、森垣二郎氏の監修のもとに、琉球政府文化財保護委員会、八重山民俗研究会などの協力を得て、足かけ二年の歳月をついやして完成したものである。…中略…収録に際しては、御冠船踊伝承者の親泊興昭（組踊・歌劇）、野村流伝承者の川田松夫（沖縄古典三味線音楽）、琉球政府文化財保護委員会主事の新城徳祐（沖縄群島民俗芸能）、八重山民俗研究会長宮良賢貞（八重山古典三味線音楽ならびに八重山群島民俗芸能）の各氏に収録曲の選択、演奏者の人選交渉等を依頼し、これらの方々の方々の全面的な協力・助言を得て録音の作業をすすめた。…中略…新城徳祐・宮良賢貞の両氏には、解説書の作成にも過分の助力を仰いだ（下線部筆者）（1965年11月20日『沖縄音楽総攬』260）。

さらに、新城徳祐作成の「沖縄群島芸能分布図」「宮古群島芸能分布図」「八重山群島芸能分布図」が掲載され、各芸能の実施地域が地図上で確認できる。これらに具体的な芸能名とその情報が追加され、「沖縄民俗芸能分布図」として三隅編 1969: 603–613 でも公開された。

また、「今回『総攬』に収めた曲は、このたび現地で新たに録音したものであるが、伊差川世瑞演奏の『じゃんな節』・『首里節』は、昭和 11、2 年ごろコロムビア・レコードに吹き込んだものを再録した」と三隅は説明した。だが、調査した結果、伊差川世瑞の『じゃんな節』は伊差川とその高弟・又吉栄義が 1934 年にコロムビア大阪支社で録音し、1935 年 7 月に発売した SP 音源（レコード番号: 28448）であることが判明した。《首里節》も同様に録音・発売された SP 音源（レコード番号: 28453）である（高橋 2012a 参照）

嘉手苅林昌・小浜守栄・比嘉春子・玉栄千代の《安里屋ユンタ》は、1966 年 EP『安里屋ユンタ』（SAS-6021）としてシングル・カットされた（高橋 2015 参照）。

2.2 復刻 CD の詳細

次に、LP 集の復刻 CD について整理する。

2.2.1 復刻 CD『甦る沖縄の歌ごえ』（1993 年）

LP 集から 63 曲を選曲し、1993 年 CD『甦る沖縄の歌ごえ～宮廷音楽・沖縄本島編』、CD『甦る沖縄の歌ごえ～宮古・八重山諸島編』（各 CD 2 枚組）がコロムビアから復刻発売された。1972 年の沖縄本土復帰から 20 年を経た記念盤である。CD 帯には「生活

の中に脈々と歌い次がれてきた沖縄人の哀歓、沖縄のこころを、全曲現地録音でとらえた LP の名盤が、沖縄復帰 20 年にあたり CD で鮮やかに甦る!!」と大々的に宣伝された。

2.2.2 復刻 CD『沖縄音楽総攬』（2007 年）

2007 年 CD『沖縄音楽総攬（下巻）』、CD『沖縄音楽総攬（上巻）』（各巻 CD 8 枚組）が別冊解説書と共に販売された。監修は三隅が務め、解説書は大城學が執筆した。LP 未収録音源を CD 化したことが最大の特徴である。具体的にはシヌグ 6 曲、八月踊り 1 曲、毛遊び（CD では野遊び）1 曲、盆祭 1 曲、種取祭 1 曲、語りと狂言 1 曲、労作唄 9 曲、わらべ唄 1 曲、計 21 曲を新たに公開した。「今回、新音源 23 曲を加えた」（2008 年 4 月 3 日『朝日新聞』21）とあるが、おそらく同名異曲の音源 2 曲も含め、23 曲としたのだろう。

2.2.3 復刻 CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓（3）』（2008 年）

2000 年 CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓（上）』、CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓（下）』がコロムビアから発売された。主に戦前のコロムビアやリーガル、沖縄音楽専門レーベルのトモエ・レコード、ツル・レコードの SP 音源を復刻したものである（高橋 2020 参照）。その後、2000 年盤を基に 2008 年 CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓（1）（2）（3）（4）』を発売した。CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓（3）』には LP 集『沖縄音楽総攬』から、安富祖流の宮里春行《十七八節》《述懐節》、湛水流の奥間盛正《作田節》他 4 曲が収録された。

2.2.4 復刻 CD『かなす』シリーズ（2018 年）

CD『かなす』シリーズとは、LP 集『沖縄音楽総攬』の現存するマスター音源からミュージシャン・音楽プロデューサーの久保田麻琴が選曲し、リマスターを施したシリーズである。2018 年 CD『かなす ウチナー』、CD『かなす ミャーク』、CD『かなす ヤイマ』の 3 枚がコロムビアから発売された。なお、ウチナーは沖縄、ミャークは宮古、ヤイマは八重山の意味である。

CD『かなす ウチナー』には LP 集から沖縄諸島 21 トラックを選曲し、未収録音源 1 トラックが収められた。T-27 には表 1 No. 61《打花鼓（中城村伊集）》を harikuyamaku（銀天団：沖縄市コザを拠点に活動するバンド）がリミックス収録した。

CD『かなす ミャーク』には LP 集から宮古諸島 22 トラックを選曲し、未収録音源 1 トラックが収められた。T-24 では表 1 No. 123《佐良浜のハイマ（伊良部島）》をミキオ（BLACK WAX）& 久保田麻琴がリミックス収録した。

CD『かなす ヤイマ』には LP 集から八重山諸島 21 トラックを選曲し、未収録音源 3 トラックが収められた。T-26 では表 1 No. 144《いんきやらぬ（石垣島白保）》を久保田麻琴がリミックス収録した。

つまり、CD『かなす』シリーズではLP集から合計64トラックを選曲し、再発売したことになる。

2.3 音楽ジャンル(279トラック)の分類

本項ではLP集『沖縄音楽総覧』の音楽ジャンルを分類する。筆者はこれまで発表してきたレコード研究において、レコード会社によるジャンル名とは別に、分析概念を新たに設定し分類してきた(高橋 2007、高橋 2012a、高橋 2020 他)。だが、本LP集はおそらく三隅が大分類、中分類、小分類を行い、16枚のレコードに集約されたと考えられる。特に、民俗芸能の分類は、三隅が1972年に発表した「沖縄の民俗芸能の分布とその分類」(三隅 1972b:35-79)の基礎となったのではないかと推察する。

2.3.1 大分類・中分類・小分類のグラフ化

大分類は〈I〉楽劇篇、〈II〉古典三味線音楽篇、〈III〉沖縄群島民俗芸能篇、〈IV〉宮古群島民俗芸能篇、〈V〉八重山群島民俗芸能篇の5篇で構成された。

中分類として〈I〉楽劇篇は(1)組踊と(2)歌劇、〈II〉古典三味線音楽篇は(1)沖縄本島と(2)八重山、〈III〉沖縄群島民俗芸能篇は(1)祭祀音楽、(2)行事音楽、(3)舞踊音楽、(4)労作唄、(5)道唄、(6)雑歌、(7)毛遊び、(8)現代沖縄の三味線歌、(9)わらべ唄、〈IV〉宮古群島民俗芸能篇は(1)祭祀音楽、(2)行事音楽、(3)舞踊音楽、(4)祝唄、(5)雑歌、(6)労作唄、(7)船唄、(8)わらべ唄、〈V〉八重山群島民俗芸能篇は(1)祭祀音楽、(2)舞踊音楽、(3)語り狂言、(4)祝唄、(5)雑歌、(6)労作唄、(7)わらべ唄、に分けられた。

小分類として〈II〉古典三味線音楽篇(1)沖縄本島は湛水流、安富祖流、野村流、口説集に分けられた。〈III〉沖縄群島民俗芸能篇は(1)祭祀音楽がオモロ、シヌグ、キューナ、雨乞、(2)行事音楽がハーリー(爬竜)、木遣り、(3)舞踊音楽が村踊、臼太鼓、八月踊、棒踊、獅子舞、エイサー、打花鼓、唐踊、京太郎、に分けられた。

〈IV〉宮古群島民俗芸能篇は(1)祭祀音楽がみゃーくじつ、正月のアヤグ、旅祈願のアヤグ、(2)行事音楽がハーリー唄、(3)舞踊音楽がクイチャー、に分けられた。

〈V〉八重山群島民俗芸能篇は(1)祭祀音楽が正月御願、豊年祭(穂利)、盆祭、結願祭、節祭、種子どり祭、進水式、雨乞い、旅祈願、夜籠り、に分けられた。

全279トラックをレコード片面「1トラック」として集計した結果、以下ようになった。

〈I〉楽劇篇(合計4トラック)

- (1)組踊=1トラック (1作品)
- (2)歌劇=3トラック (1作品)

〈II〉古典三味線音楽篇(合計32)

- (1)沖縄本島=19
 - 湛水流=4
 - 安富祖流=3
 - 野村流=8
 - 口説集=4

- (2)八重山=13

〈III〉沖縄群島民俗芸能篇(合計54)

- (1)祭祀音楽=12
 - オモロ=4
 - シヌグ=4
 - キューナ=3
 - 雨乞=1

- (2)行事音楽=2
 - ハーリー(爬竜)=1
 - 木遣り=1

- (3)舞踊音楽=17
 - 村踊=3
 - 臼太鼓=2
 - 八月踊=1
 - 棒踊=1
 - 獅子舞=1
 - エイサー=2
 - 打花鼓=1
 - 唐踊=2
 - 京太郎=4

- (4)労作唄=2
- (5)道唄=1
- (6)雑歌=8
- (7)毛遊び=2
- (8)現代沖縄の三味線歌=4
- (9)わらべ唄=6

〈IV〉宮古群島民俗芸能篇(合計46)

- (1)祭祀音楽=6
 - みゃーくじつ=1
 - 正月のアヤグ=3
 - 旅祈願のアヤグ=2

- (2)行事音楽=1

ハーリー唄=1
(3) 舞踊音楽=2
クイチャー=2

(4) 祝唄=4
(5) 雑歌=25
(6) 労作唄=1
(7) 船唄=2
(8) わらべ唄=5

〈V〉八重山群島民俗芸能篇(合計 143)

(1) 祭祀音楽=65
正月御願=2
豊年祭(穂利)=36
盆祭=2
結願祭=1
節祭=10
種子どり祭=6
進水式=1
雨乞い=2
旅祈願=4
夜籠り=1

(2) 舞踊音楽=1(獅子舞)
(3) 語りと狂言=5
(4) 祝唄=19
(5) 雑歌=28
(6) 労作唄=17
(7) わらべ唄=8

中分類	トラック数	割合
組踊	1	0.4%
歌劇	3	1.1%
湛水流	4	1.4%
安富祖流	3	1.1%
野村流	8	2.9%
口説集	4	1.4%
八重山(節歌)	13	4.7%
祭祀音楽	83	29.7%
行事音楽	3	1.1%
舞踊音楽	20	7.2%
労作唄	20	7.2%
道唄	1	0.4%
雑歌	61	21.9%
毛遊び	2	0.7%
現代沖縄の三味線歌	4	1.4%
わらべ唄	19	6.8%
祝唄	23	8.2%
船唄	2	0.7%
語りと狂言	5	1.8%
全体	279	100.0%

表 2 LP 集『沖縄音楽総攬』中分類とその割合(全 279 トラック)

上記のトラック数を中分類の項目で集計したものが表 2 である。表記の順番は左から「中分類名」「トラック数」「全 279 トラックに対する割合」である。ただし、〈II〉古典三味線音楽篇はジャンルを正確に把握するため、小分類(1)沖縄本島(湛水流、安富祖流、野村流、口説集)、(2)八重山(筆者注:節歌)でカウントした。

次に、図 1 は全 279 トラックの数値を中分類の項目別・棒グラフにしたものである。グラフを見ると、最も収録が多いジャンルは祭祀音楽=83 トラックであり、全体の 29.7%を占める。2 番目は雑歌=61 トラック(21.9%)、3 番目は祝唄=23 トラック(8.2%)、4 番目は舞踊音楽と労作唄で個々に 20 トラック(7.2%)である。6 番目はわらべ唄=19 トラック(6.8%)である。演劇分野の組踊=1 トラック(0.4%)、歌劇=3 トラック(1.1%)を合わせると、4 トラック(1.5%)になる。

琉球古典音楽の分野は湛水流=4 トラック(1.4%)、安富祖流=3 トラック(1.1%)、野村流=8 トラック(2.9%)、口説集=4 トラック(1.4%)であり、合計 19 トラック(6.8%)になる。

また、八重山諸島の節歌も〈II〉古典三味線音楽篇に 13 トラック(4.7%)を収録した。節歌とは「沖縄県八重山列島の歌曲。ユンタやジラバなどの民謡が日常生活の場で無伴奏で歌われるのに対し、三線や笛・太鼓の伴奏で歌い、〈…節〉と節名で呼ばれる芸術歌曲。八重山列島が首里王府に統治されていた頃に三線とその音楽がもちこまれ、古来伝承されていた民謡が三線の伴奏で歌われるようになった」(2021『百科事典マイペディア』)。LP 集には《赤馬節》《蔵の花節》《大原越地節》《鷺の鳥節》などの節歌が収録された。

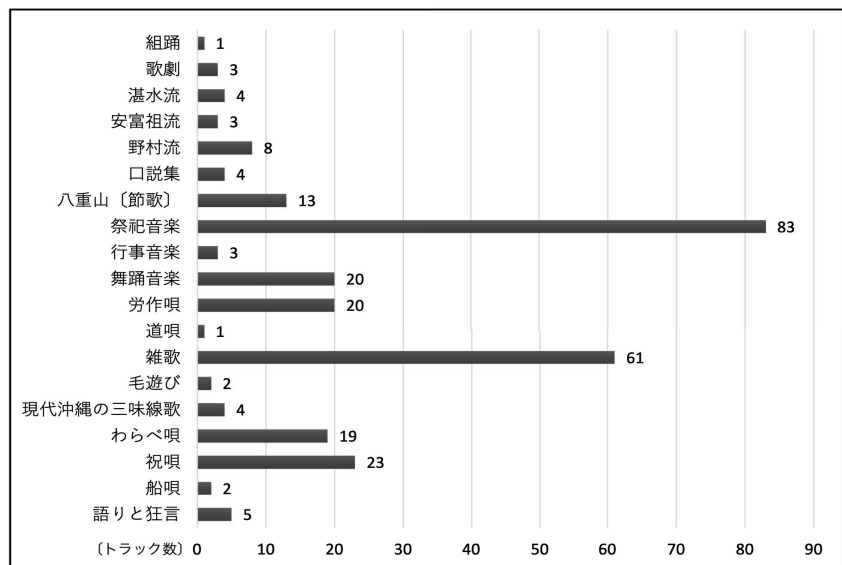


図 1 LP 集『沖縄音楽総攬』中分類の項目別・棒グラフ

2.3.2 沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島の分類

本項では収録音源を沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島に分類し、その傾向を探る。〈I〉楽劇篇:4は除き、275トラックを諸島別に分類すると、次のようになった。

〈II〉古典三味線音楽篇 : 32

(1) 沖縄本島=19

(2) 八重山=13

〈III〉沖縄群島民俗芸能篇 : 54

那覇市=11

伊江島=6

久米島=3

津堅島=4

上記以外 : 30

(筆者注: 沖縄本島 11+30=41)

〈IV〉宮古群島民俗芸能篇 : 46

宮古島=26

伊良部島=4

多良間島=6

池間島=10

〈V〉八重山群島民俗芸能篇 : 143

石垣島=48

黒島=12

小浜島=8

新城島=11

西表島=17

竹富島=13

波照間島=6

鳩間島=7

与那国島=21

上記を諸島別に合計した結果は、以下の通りである。

沖縄本島:19+沖縄群島民俗芸能篇:54=73トラック

宮古群島民俗芸能篇:46=46トラック

八重山:13+八重山群島民俗芸能篇:143=156トラック

表3は275トラック(楽劇篇4除く)の数値を諸島別にまとめたものである。

図2は275トラック(楽劇篇4除く)の数値を諸島別・円グラフにしたものである。

八重山諸島が57%と全体の半数以上を占めている。沖縄諸島26%と宮古諸島17%を合わせても43%であり、半数以下である。よって、八重山諸島の収録数が極めて多いのは明らかである。1922年民族音楽研究者・田辺尚雄が沖縄・八重山音楽調査の成果として八重山民謡を高く評価して以来、研究者やレコード会社が八重山諸島の音楽を重視する傾向は続いている(高橋2017、高橋2019参照)。例えば、コロムビアは1934年~1936年SPレコード制作のため、沖縄音楽74曲を録音した。古典53曲を除く民謡21曲の中で、八重山民謡が13曲と最も収録数が多かった(高橋2012a参照)。

ジャンル	トラック数	割合
沖縄諸島	73	26%
宮古諸島	46	17%
八重山諸島	156	57%
全体	275	100%

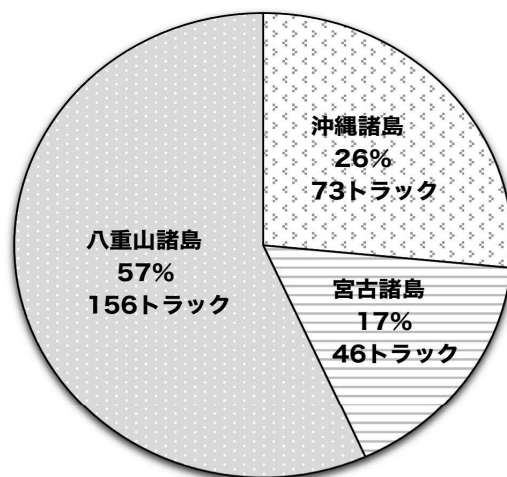


表3 LP集『沖縄音楽総攬』沖縄・宮古・八重山諸島別
(275トラック) (楽劇篇4除く)

図2 LP『沖縄音楽総攬』沖縄・宮古・八重山諸島別・
円グラフ (275トラック) (楽劇篇4除く)

次に、〈I〉楽劇篇:4 と〈II〉古典三味線音楽篇:32 を除き、243 トラックを島ごとに数値をまとめると、表 4 になった。

同様に、243 トラックを島ごとに分類した結果が図 3 である。グラフを見ると、最も収録が多いのは 48 トラックの石垣島で

19.8%を占める。2 番目は沖縄本島で 41 トラック (16.9%)、3 番目は宮古島 26 トラック (10.7%)、4 番目は与那国島 21 トラック (8.6%)、5 番目は西表島 17 トラック (7.0%) である。この結果にも、八重山諸島に重きを置いている傾向が見て取れる。

島名	トラック数	割合
沖縄本島	41	16.9%
伊江島	6	2.5%
久米島	3	1.2%
津堅島	4	1.6%
宮古島	26	10.7%
伊良部島	4	1.6%
多良間島	6	2.5%
池間島	10	4.1%
石垣島	48	19.8%
黒島	12	4.9%
小浜島	8	3.3%
新城島	11	4.5%
西表島	17	7.0%
竹富島	13	5.3%
波照間島	6	2.5%
鳩間島	7	2.9%
与那国島	21	8.6%
全体	243	100.0%

表 4 LP 集『沖縄音楽総攬』島別

(243 トラック: 楽劇篇 4, 古典三味線音楽 32 除く)

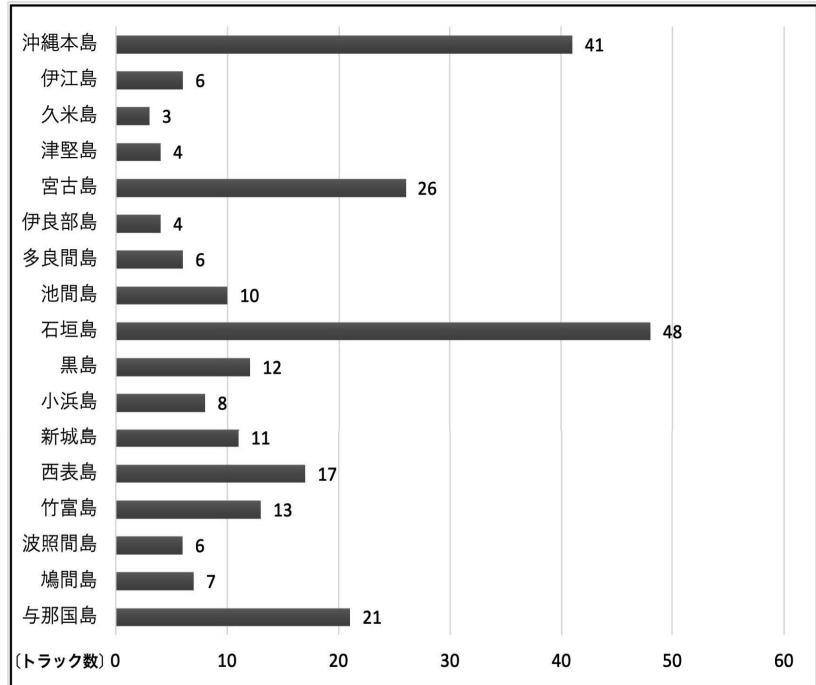


図 3 LP『沖縄音楽総攬』島別・棒グラフ

2.4 1972 年三隅治雄「沖縄の民俗芸能の分布とその分類」(三隅 1972b:35-79)

LP 集発売から 7 年後の 1972 年、三隅は沖縄の民俗芸能の研究状況について、次のように述べていた。

沖縄の民俗芸能の研究は、世間で注目されている割合に、現在あまり進んではいない。…中略…ようやく、軌道にのり出したのは琉球政府に文化財保護委員会が出来て、そこで新城徳祐氏などが民俗芸能の調査を始めてからで、折りから、本土から本田安次氏が調査に来島し、私などもそれに続いて採集を行なうようになって、かなりの資料がここ 10 年ばかりのうちに徐々に蓄積されるようになった(下線部筆者)(三隅 1972b:35)。

三隅は 1958 年 8 月に沖縄芸能の現地調査を実施し、その成果を東洋音楽学会第 69 回例会で「沖縄芸能の現状」と題して発表した。さらに、1959 年には雑誌『芸能』に「報告・沖縄の芸能—南島消息(1)～(5)—」を連載した(三隅 1959 年 2 月-7 月参照)。以降の三隅と沖縄芸能・舞踊との関連については後述する。

三隅は「沖縄の民俗芸能の分布とその分類」を実施する理由を、次のように解説した。

本稿では、それら従来の諸先学の採集成果を集積し、それに私自身の採集体験を加えて、現時点における沖縄の民俗芸能の分布を、私なりに整理し、それぞれの内容について若干の検討を加えてみたいと思う。ただし、本稿では、民俗芸能のうち、音楽の分野に関しては、従来の研究がまだ十分に熟さず今後の研究に俟つことが大きいので、のちの機会に譲り、とりあえず舞踊・演劇の 2 分野に関しての、演出様式的方面からする分類を試みることにした(下線部筆者)(三隅 1972b:35-36)。

「民俗芸能のうち、音楽の分野に関しては、従来の研究がまだ十分に熟さず今後の研究に俟つことが大きい」と記した背景として以下の 3 点が考えられる。1 点目は音楽研究者による研究成果が 1972 年以前十分に公開されていなかった。例えば、1963 年 4～5 月、民族音楽研究者・小泉文夫が東京芸術大学民俗音楽ゼミナールを結成し沖縄本島、宮古諸島、八重山諸島の音楽調査を実施した。だが、その成果はすぐに一般公開されなかった。

2 点目として、琉球古典音楽演奏家・研究者の山内盛彬が 1959 年以降自費出版した『民俗芸能全集』は沖縄音楽に造詣の深い者には理解できるが、一般的な普及には時間を要した。

3 点目として、作曲家・金井喜久子の採譜集『琉球の民謡』1954、浦原啓作の楽譜集『八重山ユンタ集』1970 が共に音楽之友社から出版された。しかし、1972 年当時、民俗芸能の音楽研究にこれらの楽譜集が十分に活用されていたとはいえない。

沖縄では伊波普猷『古琉球』1911 を始め、宮良長包(採譜)・宮良当壮(解説)『八重山古謡』1928、喜舎場永珣『八重山島民謡誌』1924 など民謡の歌詞や旋律に関する研究は進展していた。

三隅は 1958 年以降の現地調査、本田安次や琉球政府文化財保護委員・新城徳祐を始めとする研究者の研究成果を元に、沖縄の民俗芸能の分布を整理、分類した。そして、民俗芸能における音楽の分野は除き、舞踊・演劇の 2 分野に限定して演出様式的方面からの分類を実施した。その結果は以下の通りである。

「沖縄の民俗芸能分類表」

(1) 神遊び

- ①訪いわざ
- ②こねりわざ(巫女わざ)
- ③感染(かまけ)わざ
- ④競べわざ

(2) 舞踊

- ①カチャーシーモーイ
- ②組歌踊(イ)キューナ (ロ)臼太鼓
(ハ)クイチャー (ニ)巻踊 (ホ)大和歌踊
- ③念仏踊(イ)エイサー (ロ)盆アングマ
- ④京太郎 (筆者注: チョンドラー)
- ⑤獅子舞
- ⑥採り物踊 (イ)棒踊 (ロ)鎌踊 (ハ)笠踊 (ニ)道具踊
- ⑦太鼓踊
- ⑧練り踊 (イ)弥勒踊 (ロ)路次楽
(ハ)打花鼓 (ニ)国頭さばくい
- ⑨節歌踊

(3) 演劇

- ①長者の大王
- ②組踊
- ③狂言
- ④人形・操り(三隅 1972b:35-79)

次に、LP 集『沖縄音楽総覧』に収録された民俗芸能は 46 トラックであった。表 5 は三隅の「沖縄の民俗芸能分類表」に該当するトラックをまとめたものである。「三隅治雄・沖縄の民俗芸能分類」の欄が分類表の該当項目である。

三隅 1972b:35-79 では分類と該当する芸能について、(1)神遊び、(3)演劇に限定して解説した。よって、(2)舞踊については LP

集から関連する部分を抜粋する。

(2) 舞踊 ①カチャーシーモーイについて

本土風にいえば“乱舞”とか“即興舞踊”ということになるうか。沖縄では、近年自由型などと称している。要は、カチャーシー(草弾)とよぶ早い(ママ)テンポでジャカジャカかきならず三味線のリズムや太鼓の音にのって、人々が勝手な手ぶり身ぶりで自由奔放に踊りまわる踊りである。…中略…歌には、「カナヨー」とか「アガリカタサーヨ」「アッチャメー小」「唐船ドーイ」などいろいろなものがある。(下線部筆者)(三隅 1972b:51)。

下線部の曲名は表 5 NO. 79 が該当する。

(2) 舞踊 ②組歌踊(イ)キューナについて

5・5 の詞型を中心とした叙事体の詞章をつらねながら踊る女性の集団舞踊の称で…中略…節キューナの 1 種の「うりじんキューナ」「大城キューナ」を伝える首里在住の老婦人たちの手ぶりを見ると、合掌を中心としたいいかにも祈願舞踏の感じのつよいものである(下線部筆者)(三隅 1972b:52)。

下線部の曲名は表 5 NO. 46、NO. 47 が該当する。

(2) 舞踊 ②組歌踊(ホ)大和歌踊について

元の形が残っていたなら、多分いくつかの大和歌を組合わせて歌い踊ったものであろうと思われるのが、佐敷村手登根に残る「しんずう節」である(下線部筆者)(三隅 1972b:58)。

下線部の曲名は表 5 NO. 53 が該当する。

(2) 舞踊 ④京太郎について

京太郎の多彩な演芸種目については、宮良当壮氏の『沖縄の人形芝居』(炉辺叢書)に詳しいが、その中の、「早口説」「京の下り」「御知行」「馬舞者(シマメーサー)」「鳥さし舞」の 5 曲が美里村の泡瀬と宜野座村宜野座に伝えられている(下線部筆者)(三隅 1972b:66)。

下線部の曲名は表 5 NO. 64~NO. 67 が該当する。

他にも、②組歌踊(ニ)巻踊として石垣島の白保部落(No. 208)、黒島の東筋部(No. 164)が挙げられる。③念仏踊(イ)エイサーには大宜味村喜如嘉(No. 60)、佐敷村手登根に古風なエイサー念仏(No. 59)が該当する。⑦太鼓踊の例として、津堅島の唐踊(No. 62)(No. 63)がある。⑧練り踊(ニ)国頭さばくいについて「現在、国頭さばくいを正しく伝承しているのは名護市世富慶である」(三隅 1972b:77)と言い切り、これは No. 50 が該当する。

上記のように解説を紐解き、LP 集と照合した結果、三隅の「沖縄の民俗芸能分類表」に該当するのは 46 トラックであった。項目とトラック数は以下の通りである。

表5 LP集『沖縄音楽総攬』にみる三隅治雄「沖縄の民俗芸能分類」 作成:高橋美樹

No	盤面	大分類	中分類	小分類	曲名・演目名	三隅治雄・沖縄民俗芸能の分類
1	A	〈I〉 楽劇篇	(1)組踊	大川敵討	大川敵討	(3)演劇②組踊
41	A-5	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	シヌグ	(1)しち踊 (上本部村具志堅)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
42	A-6	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	シヌグ	(2)天のぼり星 (上本部村具志堅)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
43	A-7	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	シヌグ	(3)いんちゃ芋 (上本部村具志堅)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
44	A-8	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	シヌグ	(4)うでけらし (上本部村具志堅)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
45	A-9	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	キューナ	(1)天親田キューナ (玉城村仲村渠)	(2)舞踊②組歌踊 (イ)キューナ
46	A-10	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	キューナ	(2)大城キューナ (那覇市首里金城)	(2)舞踊②組歌踊 (イ)キューナ
47	A-11	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	キューナ	(3)うりじんキューナ (那覇市首里金城)	(2)舞踊②組歌踊 (イ)キューナ
48	A-12	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	雨乞	雨乞い唄 (津堅島)	(2)舞踊②組歌踊 (イ)キューナ
50	A-14	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(2)行事音楽	木遣り	国頭さばくい (名護町城)	(2)舞踊⑧練り踊 (二)国頭さばくい
51	B-1	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	村踊	(1)路次楽 (今帰仁村湧川)	(2)舞踊⑧練り踊 (ロ)路次楽
52	B-2	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	村踊	(2)長者の大主 (今帰仁村)	(3)演劇①長者の大主
53	B-3	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	村踊	(3)しんずう節 (佐敷村手登根)	(2)舞踊②組歌踊 (ホ)大和歌踊
54	B-4	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	白太鼓	(1)白太鼓 (大宜味村喜如嘉)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
55	B-5	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	白太鼓	(2)白太鼓 (津堅島)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
56	B-6	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	八月踊	スリスリ節 (東風平村富森)	(2)舞踊②組歌踊 (ロ)白太鼓
57	B-7	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	棒踊	南の島 (那覇市安里)	(2)舞踊⑥採り物踊 (イ)棒踊
58	B-8	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	獅子舞	獅子舞 (那覇市首里汀良町)	(2)舞踊⑤獅子舞
59	B-9	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	エイサー	(1)エイサー念仏 (佐敷村手登根)	(2)舞踊③念仏踊 (イ)エイサー
60	A-1	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	エイサー	(2)七月エイサー (大宜味村喜如嘉)	(2)舞踊③念仏踊 (イ)エイサー
61	A-2	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	打花鼓	打花鼓 (中城村伊集)	(2)舞踊⑧練り踊 (ハ)打花鼓
62	A-3	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	唐踊	(1)大踊 (津堅島)	(2)舞踊⑦太鼓踊
63	A-4	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	唐踊	(2)ひとち (津堅島)	(2)舞踊⑦太鼓踊
64	A-5	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(1)早口説 (本島美里村泡瀬)	(2)舞踊④京太郎
65	A-6	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(2)御知行 (本島美里村泡瀬)	(2)舞踊④京太郎
66	A-7	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(3)馬舞さー (本島美里村泡瀬)	(2)舞踊④京太郎
67	A-8	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(4)鳥さし舞 (本島美里村泡瀬)	(2)舞踊④京太郎
74	B-7	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(4)してな節 (伊江島)	(2)舞踊②組歌踊 (ホ)大和歌踊
79	A-1	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(7)毛遊び		もうあそびの歌・あがりかたさー よ・谷茶前・かなよー天川・あっちゃ め小・多幸山・唐船どーい(那覇市)	(2)舞踊①カチャーシーモーイ
80	A-2	〈III〉 沖縄群島民俗芸能篇	(7)毛遊び		越來節 (コザ市山内)	(2)舞踊①カチャーシーモーイ
98	A-8	〈IV〉 宮古群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	クイチャー	(1)とうがに兄 (宮古島平良市)	(2)舞踊②組歌踊 (ハ)クイチャー
99	A-9	〈IV〉 宮古群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	クイチャー	(2)多良間よー (多良間島)	(2)舞踊②組歌踊 (ハ)クイチャー
159	B-8	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(21)笠踊 (黒島)	(2)舞踊⑥採り物踊 (ハ)笠踊
160	B-9	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(22)鎌踊 (黒島)	(2)舞踊⑥採り物踊 (ロ)鎌踊
164	A-1	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(26)巻踊 (黒島)	(2)舞踊②組歌踊 (二)巻踊
168	A-5	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(30)巻踊 (新城島)	(2)舞踊②組歌踊 (二)巻踊
190	-14	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(3)巻踊 (竹富島)	(2)舞踊②組歌踊 (二)巻踊
202	A-11	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(2)舞踊音楽		獅子舞 (石垣島石垣)	(2)舞踊⑤獅子舞
203	A-12	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(1)うぶんだ (与那国島比川)	(3)演劇③狂言
204	A-13	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(2)ちもやま (与那国島祖納)	(3)演劇③狂言
205	A-14	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(3)びら (鳩間島)	(3)演劇③狂言
206	B-1	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(4)種子蒔狂言 (竹富島)	(3)演劇③狂言
207	B-2	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(5)家造りのユングト (石垣島白保)	(3)演劇③狂言
208	B-3	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(1)家造りの巻踊 (石垣島白保)	(2)舞踊②組歌踊 (二)巻踊
209	B-4	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(2)家たかびのジラバ(その一) (西表島祖納)	(2)舞踊⑥採り物踊 (二)道具踊
210	B-5	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(3)家たかびのジラバ(その一) (西表島祖納)	(2)舞踊⑥採り物踊 (二)道具踊

「沖縄の民俗芸能分類表」

(1) 神遊び=0トラック

- ① 訪いわざ
- ② こねりわざ(巫女わざ)
- ③ 感染(かまけ)わざ
- ④ 競べわざ

(2) 舞踊=39トラック

- ① カチャーシーモーイ 2トラック
- ② 組歌踊 (イ) クーナ 4トラック
(ロ) 臼太鼓 7トラック
(ハ) クイチャー 2トラック
(ニ) 巻踊 4トラック
(ホ) 大和歌踊 2トラック
- ③ 念仏踊 (イ) エイサー 2トラック
(ロ) 盆アンガマ 0
- ④ 京太郎 4トラック
- ⑤ 獅子舞 2トラック
- ⑥ 採り物踊 (イ) 棒踊 1トラック
(ロ) 鎌踊 1トラック
(ハ) 笠踊 1トラック
(ニ) 道具踊 2トラック
- ⑦ 太鼓踊 2トラック
- ⑧ 練り踊 (イ) 弥勒踊 0
(ロ) 路次楽 1トラック
(ハ) 打花鼓 1トラック
(ニ) 国頭さばくい 1トラック
- ⑨ 節歌踊 0

(3) 演劇=7トラック

- ① 長者の大主 1トラック
- ② 組踊 1トラック
- ③ 狂言 5トラック
- ④ 人形・操り 0

「沖縄の民俗芸能」46トラックの内訳は、(1)神遊び=0トラック、(2)舞踊=39トラック、(3)演劇=7トラックであった。全279トラック中46トラックが「民俗芸能」に該当し、16.5%を占めた。LP集『沖縄音楽総覧』の最大の特徴は民俗芸能の演舞で歌い踊られる歌に着目し、多数を選曲した点にある。

沖縄において古典音楽は独立して演奏されるが、民謡は組踊・歌劇など演劇の場、豊年祭や盆行事などで披露される場合が多い。また、舞踊の上演に民謡は必要不可欠であり、相互に影響し合いながら継承・発展を遂げてきた。ただ、曲によっては歌う機会や時期が限定される民謡もあるため、それらをレコードに収

録するには莫大な労力が必要であった。だが、その困難な収録とレコード化を三隅らは実現させたのである。

3. 琉球政府時代の文化財保護政策

本節では琉球政府による文化財保護政策とLP集の民俗芸能選定との関連性を探る。

3.1では1960年日本の文化財保護委員会による第1次沖縄調査、3.2では1962年同保護委員会による第2次沖縄調査、3.3では琉球政府文化財保護委員会による「助成の措置を講じた無形文化財」と重要無形文化財について整理する。

なお、日本は1950年5月文化財の保存・活用と国民の文化的向上を目的として文化財保護法を制定、8月に施行した。「琉球政府はこの法律を模して1954年(昭和29)6月29日に自らの文化財保護法を制定し、同日付けで施行させた」(園原2000:113)。つまり、琉球政府は1954年に文化財保護法を制定し、施行したのである。

また、1957年6月日本の文化財保護委員会は「“民俗芸能”と“民俗資料”を国と地方が協力、系統的に調べて永久に記録、保存の処置」(1957年6月30日『朝日新聞』夕刊:3)をするため、1958年度から五カ年計画で、保護委員会を中心に各府県が調査を進めることに決定した。1960年第1次沖縄調査、1962年第2次沖縄調査は、日本の文化財保護委員会のこの計画に関連するものと推察される。

3.1 1960年日本の文化財保護委員会・第1次沖縄調査

1960年3月28日～4月4日、日本の文化財保護委員会は第1次文化財調査団を沖縄へ派遣した。黒坂昌夫調査官、李正夫技官の2名は1960年3月28日那覇空港へ到着し、「空港ロビーには琉球政府文保委会の山里委員長をはじめ同仲座委員、国吉文化財専門審議会長、同大嶺専門委員、文保委会荻堂事務局長のほか南連田中事務官ら関係者多数が迎えた」(1960年3月29日『琉球新報』朝刊:5)。「第1次調査団は琉球政府文保委会の要請によるもので黒坂調査官が史跡天然記念物、李技官が建造物を対象に修理、復元、保護対策などの基礎調査」(1960年3月29日『琉球新報』朝刊:5)をした。調査団の日程は次の通りである。

▽3月29日、戦跡と南部城跡の調査

▽3月30日、那覇市首里の史跡、建造物の調査(守礼門、円鑑池、放生池) ♪お冠船の観劇

▽3月31日、中北部の史跡と民家調査

▽4月1日、北部民家調査、懇談会

▽4月2日、知念、玉城城跡の調査

▽4月3日、那覇市内の見学

▽4月4日、帰京

(下線部筆者)(1960年3月29日『琉球新報』朝刊:5)

注目するのは1960年3月30日に「お冠船の観劇」が組み込まれた点である。「日本文保委会の望みで『お冠船踊り』を再現することになった」（1960年2月18日『琉球新報』夕刊:3）という。「御冠船踊」とは「琉球王朝時代に中国皇帝の使者として来琉した冊封使一行を歓待するために、首里城内の特設舞台で催された芸能。1404年(応永11)から1866年(慶応2)の間に22回演じられ…中略…組踊や端踊が加わったのは1719年(享保4)以降で、玉城朝薫が踊奉行になってからである」（當間 2021）。

御冠船踊を再現するため、装束太鼓、音取り、組踊「森川の子（花売の縁）」²⁾《伊野波節》《コテイ節》、老人踊など9つの舞踊を準備し、音楽(地謡)は野村流約30名の参加が予告された(1960年2月18日『琉球新報』夕刊:3 参照)。

3.2 1962年日本の文化財保護委員会・第2次沖縄調査

1962年3月31日～4月4日、日本の文化財保護委員会は沖縄の文化財保護行政及び民俗芸能を調査するため、清水康平事務局長と森晋無形文化課課長補佐を沖縄へ派遣した。第1次調査とは異なり、「今回の調査は沖縄の文化財保護委員会(委員5人)の現状と民族芸能(ママ:以下同じ)に重点を置いて研究する」（1962年3月21日『沖縄タイムス』夕刊:8）ことが目的であった。また、「森課長補佐は、沖縄の民族芸能『御冠船踊』、人形劇『京太郎』、原始舞踊の『祝女の祭祀』などの演出方法(時期、場所、舞台装置、装束、楽器)演技方法、演奏などを写真、文章、録音などに記録して持ちかえる」（1962年3月21日『沖縄タイムス』夕刊:8）。その意図は「これらの民族芸能が、日本の能やカブキなど技術化する以前の古い形態をのこしている点を調査研究し34年から実施しているわが国の『民族芸能調査』の指定、類別の基礎にする予定」（1962年3月21日『沖縄タイムス』夕刊:8）だという。森の言う「34年から実施しているわが国の『民族芸能調査』とは、前述した1958年度開始五カ年調査計画を指している。

各府県の調査は、下記3段階により進める計画であった。

- ①各府県は県内の民俗芸能の中から秀れたものを、府県の文化財として指定。
- ②この指定した芸能を録音、フィルムなどに記録して保存する。
- ③国では“府県文化財”として指定された芸能のうちから文化財保護委員会でさらに選び、重要無形文化財にして保護する(1957年6月30日『朝日新聞』夕刊:3)。

「演出方法、演技方法、演奏などを写真、文章、録音などに記録して持ちかえる」調査方法は、上記②に該当し、森課長補佐は第2次調査で実践しようとした。

第2次沖縄調査の期間中、琉球政府創立10周年記念「民俗芸

能の公演」（主催:琉球政府文化財保護委員会）が1962年4月2日沖縄タイムスホール(招待公演)、3日沖縄タイムスホール(有料)、4日コザ琉米親善センター(有料)で開催された。「古代より各地に継承されている民俗芸能」（新城1962:55）から20種を公開した。「民俗芸能の公演」のプログラムは以下の通りである。

▽古典音楽湛水流(湛水流音楽保存会)

唄と三味線＝奥間盛正ほか15名＝城間千鶴ほか2名

▽じゃんな節 ▽早作田節(下出し)

▽勢理客の獅子舞(浦添村勢理客) 踊子＝具志堅全輝、同金太、三味線＝具志堅全常

▽舞踊 仲村渠節〔仲島節〕(竹富島) 玉木光子

▽シテナ節(伊江村字東上) 舞踊:大城勝民ほか5名、唄三味線:与那城忠正、石新一

▽組棒(今帰仁村今泊) 上間幸雄ほか4名

▽豆どうま(竹富島) 前原敦子ほか6名

▽舞踊 本花風節(具志川村田場) 新垣義志

▽かでく舞(黒島) 大田幹雄ほか7名

▽舞踊 仲村渠節〔網打ち踊り〕(久米島具志川村仲地) 吉永昌安

▽古武術(第1部) 比嘉清徳ほか5名

▽馬舞(読谷村高志保) 比嘉秀康ほか9名

▽種蒔踊〔タノウリヤー〕(竹富島) 市村貞子、小底春子

▽太鼓(段のもの)(石垣市登野城) 富永実彦

▽大胴小胴(石垣市登野城) 作村用明、大浜信規

▽盆踊り〔エイサー〕(名護町世富慶) 岸本林栄ほか19名

▽銭太鼓(竹富島) 玉木光子ほか7名

▽古武術(第2部) ムンチャク、トイファー、鎌、空手＝喜屋武真栄ほか6名

▽太楽(黒島) 前竹栄善ほか12名

▽南島踊〔フェーノシマ〕(那覇市安里) 山城盛善、玉井亀吉、新垣正達、玉井栄良ほか13名

▽クイチャー(竹富町) 玉木光子ほか15名

▽打花鼓〔ターファークー〕(中城村伊集) 唄と三味線＝井口蒲戸、新垣亀吉、ブイ＝奥浜真盛ほか10名(下線部筆者)(1962年3月31日『琉球新報』朝刊:5)(新城1962:55-63 参照)

新城徳祐(琉球政府・文化財保護委員会事務局)は民俗芸能の選定基準について、次のように述べた。

このたび公開したものは、数多く残っているものの中から20種目を選定したが、中には無形文化財として衰亡のおそれがあるというので助成したものもあり、又、歴史上、芸術上に価値あるもので、あまり一般に知られていないものや、沖縄中にただ1人しかおぼえていないという貴重なもの等であった(新城1962:55)。

衰亡の危機のある文化財、歴史的・芸術的に価値がある文化財、保持者が希少な文化財を基準として選定したと捉えられる。

LP 集『沖縄音楽総覧』と「民俗芸能の公演」の共通演目(地域)は、下線部の湛水流《早作田節(下出し)》、シテナ節(伊江島)、南島踊(那覇市安里)、打花鼓(中城村伊集)の音楽＝1曲、民俗芸能＝3演目である。中でも、湛水流の奥間盛正、南島踊(玉井亀吉、新垣正達、玉井栄良)、打花鼓(井口蒲戸、新垣亀吉)の各演者はLP収録の際も参加した。

3.3 琉球政府時代の文化財保護行政

本項では琉球政府の文化財保護委員会が「助成の措置を講じた無形文化財」について整理する。

3.3.1 「助成の措置を講じた無形文化財」関連の法律

琉球政府文化財保護法第 37 条(1954 年施行)には、無形文化財に関する下記の条文がある。

第 4 章 無形文化財

(助成)第 37 条

無形文化財のうち特に価値の高いもので政府が保護しなければ衰亡するおそれがあるものについては、委員会は、その保存にあたることを適当と認める者に対し、補助金を交付し、又は資料の斡旋その他適当な助成の措置を講じなければならない(下線部筆者)(琉球政府文化財保護委員会編 1959:6)。

さらに、1956 年 3 月 20 日「特別重要文化財重要文化財等指定並びに選定基準」(文化財保護委員会告示第 4 号)を制定した。4 つの選定基準の中で、本稿に関連するのは「助成の措置を講ずべき無形文化財の選定基準」である。

【助成の措置を講ずべき無形文化財の選定基準】

左に掲げるもののうち琉球の文化の精髓を象徴し、古典的文化財として芸術的価値の高いもの、又は琉球住民生活の伝統に根ざし、琉球文化の特質を保有し歴史的意義を有するもの

1、芸能関係

音楽、舞踊、演劇その他のうち、例えば民謡、郷土芸能、民間伝承、行事等

2、工芸技術関係

漆工、金工、木竹工、染織、陶磁器、建築その他(下線部筆者)(琉球政府文化財保護委員会編 1959:24)

3.3.2 「助成の措置を講じた無形文化財」

助成の措置を講じた無形文化財の中で、音楽・芸能関係(民謡、

郷土芸能)は以下の通りである。琉球政府文化財保護委員会編 1962:38-41 から抜粋した。なお、沖縄の古武術は除外した。

◎民謡

- 1、名称：八重山民謡
- 2、所在地：八重山石垣市
- 3、保持者又は責任者：八重山文化協会
- 4、助成金額及び助成年月日：1、金 1 万円 1956 年 10 月
- 5、内容：吉願踊のパトマ節、盆アングマの念仏唄、ウニヌヤーユンタ、ヤマバレーユンタ
- 6、理由：第 11 回日本文化財保護委員会主催の芸術祭に指名されて出演した芸能で、八重山民謡としての純真さを失わぬよう代々伝授継承させることにした。

◎音楽

- 1、名称：湛水流音楽
- 2、所在地：コザ市比嘉区 3 班
- 3、保持者又は責任者
保持者：中村孟順 明治 26 年 4 月 26 日生
責任者：コザ地区教育長
- 4、助成金額及び助成年月日：1、金 1 万円 1957 年 5 月 2 日
- 5、内容：夏氏時湛水親方幸地賢忠(1623 年～1683 年)が創案した湛水流は、現在伝わっている琉球音楽の中、最古のもので、その曲目は 9 曲である。
曲目：作田節、早作田節(下出し)、早作田節(揚出し)、揚作田節(下出し)、揚作田節(揚出し)、首里節、ヂヤンナ節、諸鈍節、暁節
- 6、理由：湛水流は、琉球最古の古典音楽として、又、民俗資料として甚だ価値の高いものであるが大衆化された野村流や安富祖流の盛況におされ、中村孟順氏を師範として僅か数人の同好者があるのみで衰亡するおそれがあり、依って助成金を与えて保護し、子弟に伝授して継承せしめることにした。
備考：中村孟順氏は 1959 年 12 月 日死去した。

◎民間芸能

- 1、名称：八重山の太鼓
- 2、所在地：石垣市登野城 685
- 3、保持者又は責任者：平田直補 明治 24 年 8 月 14 日生
- 4、助成金額及び助成年月日：1、金 5 千円 1957 年 5 月 25 日
- 5、内容：太鼓の芸は単独に演ずる場合と、大胴小胴と合奏する場合とがある、昔から太鼓の楽譜が伝わっていてその楽譜の通りである。
- 6、理由：平田直補氏の太鼓の妙技は、無形文化財として、又、民俗資料として価値が高いため助成してその妙技を子弟に伝授継承させることにした。

◎民間芸能

1、名称：八重山の大胴小胴

2、所在地：石垣市登野城

3、保持者又は責任者

大胴：石垣市登野城 90-1 佐村用明(明治 34 年 12 月 19 日生)

小胴：石垣市登野城 19 大浜信規(明治 34 年 3 月 11 日生)

4、助成金額及び助成年月日：1、金 5 千円 1957 年 5 月 25 日

5、内容：大胴小胴は、共に鼓であって大胴は左脇に抱えて右手にて打ち、小胴は左手にて左肩上に支え右手にて打つ、大胴小胴と太鼓と合奏する場合もあるが、大胴小胴が合奏するのが常で共に伝来の楽譜によってなされる。

6、理由：佐村用明、大浜信規の大胴小胴の芸能は、無形文化財として又、民俗資料として価値あるものとして助成して保存の措置を講じた。

◎民間芸能

1、名称：伊集の打花鼓

2、所在地：中城村字伊集

3、保持者又は責任者：責任者 中城村字伊集区長

4、助成金額及び助成年月日：1、金 1 万円 1958 年 5 月 31 日

5、内容：この芸能は、服装、歌詞、曲ともに支那から伝わったもので、踊りも琉球舞踊とは大いに趣を異にした特殊な芸能である。踊手：11 人、歌三味線：2 人

6、理由：この芸能は、那覇の久米村に支那から伝わってきたものであるが、久米村では既にこれがなくなって中城村の伊集だけに残っているこの打花鼓は、琉球の文化史上価値の高い芸能として助成して伝承させることにした。

◎民間芸能

1、名称：泡瀬の京太郎

2、所在地：美里村字泡瀬

3、保持者又は責任者：責任者：美里村字泡瀬区長

4、助成金額及び助成年月日：1、金 1 万 5 千円 1958 年 5 月 31 日

5、内容：京太郎の芸能は、不遇の父子が京都から沖縄に島流しされ、それ以来京都太郎(ママ)と云われ、人形芝居や、万才、念仏等を唱え、鉦叩きなどをして各地を廻り歩いたという伝えがあるが、泡瀬部落では今から 50 数年前、この芸を首里から習って来て村芝居として劇に織り込み、今では舞台の上で演ずる地方芸能に変わって来ている。

6、理由：この芸能は、泡瀬の村芝居として演じられてきたものであるが、戦後が殆んどその機会がなく遂に忘れられようとしていたので、その衰亡を防止するために助成して伝承させることにした。

◎ 民俗芸能

1、名称：首里汀良の獅子舞

2、所在地：那覇市首里汀良町

3、保持者又は責任者：保持者：那覇市首里汀良町 1-47 比嘉賀真(明治 24 年 11 月 17 日生)

4、助成金額及び助成年月日：1、金 1 万 5 千円 1958 年 5 月 31 日

5、内容：獅子舞は、日本各地にもあるが、沖縄の獅子舞は日本のものとは趣が大分異り、首里の外、国頭、中頭、八重山地方にも残っている。獅子舞は、秋の豊年祭やその他の行事の時に演じられ、祭がすむとその保管は村頭や、ノロ家に崇められ日頃はその村落の守本尊として尊崇している。

6、理由：獅子舞は、豊年祭等の時に各地方で盛に演じられたものであるが戦後は殆んど行われなくなった。比嘉賀真氏は数 10 年来、獅子舞の伝統の型を承けついでいるので助成金を与えて次代に継承させることにした。

◎ 古典劇

1、名称：組踊 執心鐘入

2、所在地：那覇市組踊保存会

3、保持者又は責任者：組踊保存会

4、助成金額及び助成年月日：1、金 250 円 1959 年 6 月 26 日
：1、金 200 円 1960 年 12 月 25 日

5、内容：組踊「執心鐘入」は、尚敬王代、始めて踊奉行に任じられた玉城朝薫が作ったもので、支那の冊封使を歓待するため、首里王城において御冠船踊として上演された。能の道成寺に似ているが、その異なる点は、説話が組踊として仕組まれたところで、登場人物と幕内の歌三味線とが一体となって演じられるところに琉球の国劇としての妙味がある。

6、理由：組踊が 1719 年の御冠船に上演されて以来、琉球の国劇となり、最後の寅の御冠船踊(1866 年)の後は民間にも広く伝承されていたが今次の大戦後は次第に忘れられ、一部の特殊の人々が覚えているのみであってこの人々の存命中に子弟に伝授継承させなければ衰亡するおそれがあるので助成金を与えて保護し、琉球国劇の伝承につとめた。

◎ 民俗芸能

1、名称：八重山民俗芸能

2、所在地：八重山竹富町字黒島

3、保持者又は責任者：八重山歴史民俗資料調査会、会長：宮城信勇

4、助成金額及び助成年月日：1、金 50 円 1960 年 11 月 25 日

5、内容 穂利踊

神の国から稲粟の種子を神々が持ってくる。その神船に、選ばれた青年達が穂利船を仕立て競漕して行って種物を戴き部落の浜に荷おろす、そこで神司たちが神々を浜の仮屋にお迎えす

る。以上のイメージを福祿寿の軸物をかかげ神酒供物をそなえて示す。部落の芸能集団青年組は仮屋の前庭である砂浜で笠踊、鉦踊、鎌踊、カデク舞、太楽、マキ踊を演ずる。服装は農耕用の平服、踊り道具は鉦、鎌、クバ笠、ミノの農耕具である。楽器はドラ鐘、ツヅミ、笛、竹製ブラで老婦人連の6月ジラバ(謡)で踊る。

6、理由：日本文化財保護委員会主催の芸術祭に指名されて出演した芸能である。(1960年10月)

(琉球政府文化財保護委員会編 1962:38-41)

上記と琉球政府文化財保護委員会編 1966:5 を照合すると、次のように要約できる。

➤1956 年度：八重山民謡(1 万円)

➤1957 年度：古典音楽・湛水流(83 弗:1 万円)

八重山の太鼓(5 千円:42 弗)

八重山の大胴小胴(5 千円:42 弗)

➤1958 年度：伊集の打花鼓(1 万円:167 弗)

泡瀬の京太郎(1 万 5 千円:125 弗)

首里汀良の獅子舞(1 万 5 千円:125 弗)

➤1959 年度：組踊「執心鐘入」(250 弗)

➤1960 年度：組踊「執心鐘入」(200 弗)

八重山民俗芸能・黒島「穂利踊」(50 弗)

➤1963 年度：南の島踊(100 弗)

➤1964 年度：組踊「花売の縁」(150 弗)

➤1965 年度：組踊「手水の縁」(150 弗)(下線部筆者)

1956 年度～1965 年度に琉球政府文化財保護委員会が「助成の措置を講じた無形文化財」の中で、LP 集に収録されたのは下線を引いた古典音楽・湛水流、伊集の打花鼓、泡瀬の京太郎、首里汀良の獅子舞、八重山民俗芸能・黒島「穂利踊」、南の島踊の音楽＝1 流派、民俗芸能＝5 演目である。

なお、無形文化財について審議する第3分科会のメンバー(1965年12月30日時点)は会長:西平守模、川平朝申、安谷屋正量、池宮喜輝、渡嘉敷貞子、仲井真元楷、山田有功の7名であった(琉球政府文化財保護委員会編 1966:88 参照)。

また、1956 年度「八重山民謡」6、理由の「第11回日本文化財保護委員会主催の芸術祭」とは、1956 年「第7回全国郷土芸能大会」(於:日本青年館)を指す。八重山歌舞団(大浜津呂、大浜安伴他)が出演し、盆あながま、《鳩間節》《黒島口説》他を演舞した(文化財保護委員会 1956 参照)。

また、1960 年度「八重山民俗芸能」6、理由の「日本文化財保護委員会主催の芸術祭」とは、1960 年10月芸術祭15周年記念主催公演「第11回全国民俗芸能大会」(於:日本青年館)を指す。本公演には八重山の歌と踊りが出演し、笠踊り、鉦鎌踊り、

カデイク・マイ、太楽、マキ踊り、古見之浦節、野遊びなどを披露した³⁾。

3.3.2 重要無形文化財の指定

1954 年琉球政府が文化財保護法を制定した際、無形文化財に関しては第4章(助成)で示したに過ぎなかった。第37条では保存に当たるものに補助金の交付や助成の措置、第38条では委員会が3箇月以内の期間に限って当該無形文化財の公開を命ずることができる(琉球政府文化財保護委員会編 1959:6)と示した。第37条に沿った措置については、3.3.1 で整理した通りである。

その後、1965 年6月琉球政府は文化財保護法を全文改正し(立法29号)、「第4章無形文化財」の項目に第58条～第64条が新たに制定された。主に重要無形文化財の指定等に関する条文であり、第58条「委員会は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定することができる」(琉球政府文化財保護委員会編 1966:25-26)とした。しかし、その後、この新しい文化財保護法の適用を受け、重要無形文化財に指定されたのは1967年の組踊のみであった。組踊が重要無形文化財に指定された背景として、以下のプロセスが挙げられる。

➤1965 年10月：琉球組踊保存会結成、会長は真境名由康

➤1966 年2月：琉球組踊保存会「大川敵討」上演

➤1967 年1月：国立劇場開場記念「琉球舞踊 第1回公演／御冠船踊」で「女物狂」「花売の縁」「手水の縁」「万才敵討」「二童敵討」上演。沖縄放送局、記録映画「万才敵討」作成

➤1967 年3月：琉球組踊保存会『組踊研究』創刊号出版

➤1967 年4月：琉球政府文化財保護委員会、記録映画「執心鐘入」「花売の縁」作成

➤1967 年6月：琉球政府文化財保護委員会、組踊(玉城朝薫作・組踊五番)、重要無形文化財に指定(矢野 2001:323-324 参照)

1965 年以降、琉球組踊保存会の結成(保存団体の結成)、「大川敵討」上演(第62条:公開)、記録映画の作成(第64条:記録の作成)という重要無形文化財に該当する条件を蓄積していた。その結果、1967 年6月に玉城朝薫作「二童敵討」「執心鐘入」「銘苅子」「女物狂」「孝行の巻」の朝薫五番と呼ばれる組踊が重要無形文化財に指定された(1967 年6月7日『沖縄タイムス』4 参照)

1972 年沖縄県が本土復帰し、日本の文化財保護法が適用される以前、つまり、琉球政府時代に重要無形文化財に指定されたのは唯一組踊だけだったのである。

4. LP 集収録・民俗芸能のその後

本項では沖縄県が1972 年本土復帰後、琉球政府の「重要無形文化財」「助成の措置を講じた無形文化財」が日本の文化財保護法の適用により、どのように記録選択・指定が実施されたのか。

LP 集収録音源に限定し、その軌跡を辿る。詳細は、表 6「LP 集『沖縄音楽総攬』にみる文化財指定」を参照されたい。

池田榮史によると「1969(昭和 44)年 11 月に日米合同宣言が発表され、1972 年に沖縄の施政権が日本へ返還されることが示された。これを受け、琉球政府文化財保護委員会では日本の文化庁との間で、日本復帰後の文化財保護行政のあり方に関する調整を進めた。この過程で、琉球政府文化財保護委員会が指定した文化財の位置づけが検討され、復帰後に国指定文化財、沖縄県指定文化財に振り分ける作業が行われた。この結果、1972(昭和 47)年 5 月 15 日をもって、琉球政府指定文化財は国指定あるいは沖縄県指定文化財へと指定変更された」(池田 2008:168)。

さらに、「沖縄の日本復帰後、琉球政府文化財保護委員会は沖縄県教育庁文化課に再編成され、日本の文化財保護行政システムの中に組み込まれた…中略…文化財保護委員会の権限を保障していた『琉球政府文化財保護法』は、他府県のを参考にして、『沖縄県文化財保護条例』に組み換えられた」(池田 2008:169)。

民俗芸能の扱いについて、「1975 年の文化財保護法の改正で、従来の『民俗資料』は『民俗文化財』という名称に改められ、民俗芸能はそれまで無形文化財の芸能部門に属していたが、以後は無形の民俗文化財として取り扱われ、無形文化財の範疇には入っていない」(榎本 2019)。

「民俗文化財とは…中略…衣食住、信仰、年中行事などに関して、風俗慣習・民俗芸能・民俗技術(無形)と、それに用いられる衣服・器具・家屋(有形)とに分けられる。そのうち特に重要なものであると国が指定した無形の文化財を重要無形民俗文化財という。重要無形民俗文化財の指定基準は、風俗慣習のうち、由来、内容等において国民の基盤的な生活文化の特色を示す典型的なもの、年中行事、祭礼、法会等の行事で芸能の基盤を示すもの。または民俗芸能のうち、芸能の発生または成立を示すもの、芸能の変遷の過程を示すもの、地域的特色を示すもの」(2012「重要無形民俗文化財」『情報・知識 imidas 2018』)である。

また、「選択無形民俗文化財」とは「文化庁長官が選択する『記録作成等の措置を講ずべき無形文化財』の通称であり、重要無形文化財には指定されていないが、芸能・工芸技術などの記録や公開が必要であるとして、国が記録を作成したり、助成を行ったりするもの」(2021「選択無形民俗文化財」『デジタル大辞泉』)をいう。

4.1 琉球政府「重要無形文化財」→国「重要無形文化財」→ユネスコ無形文化遺産

4.1.1 【組踊】

1965 年 LP 集には組踊「大川敵討」が収録された。

1959 年～1960 年組踊「執心鐘入」、1964 年組踊「花売の縁」、1965 年組踊「手水の縁」が琉球政府「助成の措置を講じた無形

文化財」となった。

1967 年琉球政府は玉城朝薫作の組踊「二童敵討」「執心鐘入」「銘苅子」「女物狂」「孝行の巻」を「重要無形文化財」に指定した。

1972 年組踊は国の「重要無形文化財」(伝統組踊保存会:代表・真境名由康)に指定された。この背景として、「沖縄の本土復帰に備え文化財保護審議会は、(筆者注:1972 年 3 月)24 日、代表的な宮廷舞踊の『伝統組踊保存会』を重要無形文化財に、また旧国宝の旧円覚放生橋をはじめ社寺、民家など建造物 9 件 18 むねを重要文化財に、それぞれ指定するよう文化庁に答申した。文化庁は復帰と同時に、指定できるよう手はずを整える」(1972 年 3 月 25 日『朝日新聞』22)。そして、復帰の 1972 年 5 月 15 日に指定された。琉球政府文化財保護委員会と日本の文化庁との間の調整により、復帰後、組踊は国指定文化財へ振り分けられた。文化庁文化財調査官・吉田純子によると「国の指定は、『朝薫の五番』ということではなく、組踊という演技様式全般を指定」(吉田 2012:46)した。

2010 年 11 月 16 日「民俗芸能や祭りなどを顕彰する国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産の代表リストに、『組踊』(沖縄県)と『結城紬』(茨城県、栃木県)」(2010 年 11 月 17 日『朝日新聞』37)が登録された。組踊の所属する機関又は団体は伝統組踊保存会である⁴⁾。

4.2 琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」→沖縄県・無形文化財→国「重要無形文化財」

4.2.1 【湛水流音楽】

1965 年 LP 集には湛水流音楽《作田節》《早作田節(下げ出し)》《早作田節(上げ出し)》《揚作田節》が収録された。

1957 年湛水流音楽は琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」(保持者:中村孟順)となった。

1972 年沖縄伝統音楽湛水流(保存団体:沖縄伝統音楽湛水流保存会協議会)は沖縄県の無形文化財に指定された。

2000 年琉球古典音楽(湛水流)は国の「重要無形文化財」に指定された。

4.3 琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」→国・記録選択→那覇市・無形民俗文化財

4.3.1 【南の島(フェースシマ)】

1965 年 LP 集には南の島(那覇市安里)が収録された。

1963 年南の島(フェースシマ)(那覇市安里)は琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」となった。

1979 年那覇安里のフェースシマ(保護団体:那覇安里のフェースシマ保存会)は国の記録選択・無形文化財となった。

1994 年宇安里のフェースシマ(保持団体:安里南之島保存会)は那覇市の無形民俗文化財に指定された。

表6 LP集『沖縄音楽総覧』にみる文化財指定

作成：高橋美樹

No	盤面	LP曲名・演目名	琉球政府・文化財	沖縄県・文化財	国・文化財	市町村・文化財	ユネスコ文化遺産		
1	A	大川敬討	組踊「執心鐘入」1959年-1960年助成の措置を講じた無形文化財/組踊「花売の縁」1964年助成の措置を講じた無形文化財/組踊「手水の縁」1965年助成の措置を講じた無形文化財/組踊-1967年琉球政府-重要無形文化財		組踊-1972年国指定-重要無形文化財(伝統組踊保存会)		組踊-2010-ユネスコ無形文化遺産		
2	A	泊阿嘉・序幕-伊佐殿内の門前の場・アカチラ浜の場		琉球歌劇-1989年沖縄県指定-無形文化財(琉球歌劇保存会)					
3	A-1	泊阿嘉・第五幕 遺言状連歌の場							
4	B-2	泊阿嘉・大詰 墓前の場							
5	A-1	(1)作田節	湛水流音楽-1957年助成の措置を講じた無形文化財(保持者:中村孟順)9曲	沖縄伝統音楽湛水流-1972年沖縄県指定-無形文化財(沖縄伝統音楽湛水流保存会協議会)	琉球古典音楽-2000年国指定-重要無形文化財				
6	A-2	(2)早作田節(下げ出し)							
7	A-3	(3)早作田節(上げ出し)							
8	A-4	(4)揚作田節							
9	B-1	(1)十七八節		沖縄伝統音楽安富祖流-1972年沖縄県指定-無形文化財(沖縄伝統音楽安富祖流保存会)	琉球古典音楽-2000年国指定-重要無形文化財				
10	B-2	(2)諸屯(舞踊曲)〈仲間節〜諸屯節〜しよんがない節〉							
11	A-1	(3)述懐節							
12	A-2	(1)じゃんな節							
13	A-3	(2)首里節		沖縄伝統音楽野村流-1972年沖縄県指定-無形文化財(沖縄伝統音楽野村流保存会)	琉球古典音楽-2000年国指定-重要無形文化財				
14	B-1	(3)かぎやで風節							
15	B-2	(4)恩納節							
16	B-3	(5)長伊平屋節							
17	B-4	(6)中城はんた前節							
18	B-5	(7)こてい節							
19	A-1	(8)晩節							
20	A-2	(1)上り口説			琉球古典音楽-2000年国指定-重要無形文化財				
21	A-3	(2)四季口説							
22	A-4	(3)大願口説							
23	A-5	(4)道輪口説							
24	B-1	(1)赤馬節・しゅら節	八重山古典民謡-1983年沖縄県指定-無形文化財(八重山古典民謡保持者協会)			古見の浦節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財(古見民俗芸能保存会)-西表島			
25	B-2	(2)蔵の花節・大原越地節							
26	B-3	(3)月夜浜節・舟越節							
27	A-1	(4)鷺の鳥節							
28	A-2	(5)やくじゃま節							
29	A-3	(6)布さらし節・てんがなし節・まいのと節							
30	A-4	(7)古見の浦節			古見の浦節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財(古見民俗芸能保存会)-西表島				
31	A-5	(8)とばらま節							
32	B-1	(9)白鳥節・きやいそう節			仲筋ぬヌベマ節-1973年竹富町指定-無形民俗文化財(竹富町民俗芸能保存会)				
33	B-2	(10)仲筋のヌベーマ							
34	B-3	(11)ちんだら節・久場山越地節			安里屋節-1973年竹富町指定-無形民俗文化財(竹富町民俗芸能保存会)				
35	B-4	(12)安里屋節							
36	B-5	(13)高那節							
37	A-1	(1)ノロの祈願のおモロ(海神祭)(大宜味村)		沖縄北部のウンガミ-1992年国記録選択/塩屋湾のウンガミ-1997年国指定-重要無形民俗文化財(田港地区・屋古区・塩屋区・白浜区)					
46	A-10	(2)大城クエーナ(那覇市首里金城)			首里のクエーナ-1994年那覇市指定-無形民俗文化財(首里クエーナ保存会)				
47	A-11	(3)うりじんクエーナ(那覇市首里金城)			首里のクエーナ-1994年那覇市指定-無形民俗文化財(首里クエーナ保存会)				
51	B-1	(1)路次楽(今帰仁村湧川)		湧川の路次楽-2002年沖縄県指定-無形民俗文化財(湧川路次楽保存会)		湧川の路次楽-1998年今帰仁村指定-無形民俗文化財(湧川路次楽保存会)			
57	B-7	南の島(那覇市安里)	南の島謡-1963年助成の措置を講じた無形文化財		那覇安里のフェースシマ-1979年国記録選択(那覇安里のフェースシマ保存会)	字安里のフェースシマ-1994年那覇市指定-無形民俗文化財(安里南之島保存会)			
58	B-8	獅子舞(那覇市首里汀良町)	首里汀良の獅子舞-1958年助成の措置を講じた無形文化財(保持者:比嘉賀真)			首里汀良町の獅子舞-1987年那覇市指定-無形民俗文化財(首里汀良町獅子舞保存会)			
59	B-9	(1)エイサー念仏(佐敷村手登根)				手登根エイサー-1982年佐敷町指定-無形民俗文化財(手登根区)			
61	A-2	打花鼓(中城村伊集)	伊集の打花鼓-1958年助成の措置を講じた無形文化財	伊集の打花鼓-1985年沖縄県指定-無形民俗文化財(中城村伊集打花鼓保存会)					
62	A-3	(1)大踊(津堅島)		津堅島の唐踊-1978年沖縄県選択-文化財(津堅民俗芸能保存会)					
63	A-4	(2)ひととち(津堅島)							

64	A-5	(1)早口説（本島美里村泡瀬）	泡瀬の京太郎-1958年助成の措置を請じた無形文化財	泡瀬の京太郎-1980年沖縄県指定-無形民俗文化財（泡瀬京太郎保存会）	泡瀬の京太郎-2005年国記録選択-無形民俗文化財		
65	A-6	(2)御知行（本島美里村泡瀬）					
66	A-7	(3)馬舞さー（本島美里村泡瀬）					
67	A-8	(4)鳥さし舞（本島美里村泡瀬）					
91	A-1	みゃーくじつのアヤグ（池間島）		池間島のマークツツ-1981年沖縄県指定-文化財（池間島民謡保存会）		池間島のマークツツ-2005年平良市指定-無形民俗文化財（池間島自治会）	
98	A-8	(1)とうがに兄（富古島平良市）			宮古のクイチヤー-2002年国記録選択-無形民俗文化財		
154	B-3	(16)仲良田節（西表島祖納）				仲良田節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（西表民俗芸能保存会）	
156	B-5	(18)道行の唄（小浜島）	八重山民俗芸能（穂利踊）-1960年助成の措置を請じた無形文化財（笠踊、線踊、鎌踊、カデク舞、太楽、マキ踊）		小浜島の芸能-1995年国記録選択（小浜民俗芸能保存会）/小浜島の盆・結願祭・種子取祭の芸能-2007年国指定-重要無形民俗文化財（小浜民俗芸能保存会）		
157	B-6	(19)家入りの唄（小浜島）					
158	B-7	(20)踊の唄（小浜島）					
159	B-8	(21)笠踊（黒島）				笠踊-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（黒島民俗芸能保存会）	
160	B-9	(22)鎌踊（黒島）				鎌踊-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（黒島民俗芸能保存会）	
175	A-12	(1)阿弥陀仏（小浜島）			小浜島の芸能-1995年国記録選択（小浜民俗芸能保存会）/小浜島の盆・結願祭・種子取祭の芸能-2007年国指定-重要無形民俗文化財（小浜民俗芸能保存会）		
176	A-13	(2)いへらんどうさ（小浜島）					
177	B-1	ダドダーの唄（小浜島）					
180	B-4	(3)びょーし（西表島祖納）			西表島祖納-星立の節祭-1978年国記録選択（西表民俗芸能保存会）/西表島の節祭-1991年国指定-重要無形民俗文化財（西表民俗芸能保存会）		
181	B-5	(4)今日の誇らしや（西表島祖納）					
182	B-6	(5)五尺でい（西表島祖納）					
183	B-7	(6)ぐぐふわ（西表島祖納）					
189	B-13	(2)道唄（竹富島）			竹富島の種子取-1974年国記録選択-無形の民俗文化財（竹富島種子取保存会）/1977年国指定-重要無形民俗文化財（竹富島民俗芸能保存会）		
190	-14	(3)巻踊（竹富島）					
191	B-15	(4)月と世ば（竹富島）					
192	A-1	(5)稲が実の唄（竹富島）					
193	A-2	(6)根強い唄（竹富島）					
213	B-8	(6)しきた盆（竹富島）				しきた盆-1973年竹富町指定-無形民俗文化財（竹富町民俗芸能保存会）	
217	A-2	(10)下原節（西表島祖納）				下原節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（西表民俗芸能保存会）	
218	A-3	(11)小浜節（小浜島）				小浜節-1973年竹富町指定-無形民俗文化財（小浜民俗芸能保存会）	
219	A-4	(12)夜雨節（波照間島）				夜雨節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（波照間民俗芸能保存会）	
220	A-5	(13)波照間島節（波照間島）				波照間島節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（波照間民俗芸能保存会）	
221	A-6	(14)鳩間中岡（鳩間島）				鳩間中森-1976年竹富町指定-無形民俗文化財（鳩間民俗芸能保存会）	
223	A-8	(16)黒島口説（黒島）				黒島口説-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（黒島民俗芸能保存会）	
224	A-9	(17)波照間口説（波照間島）				波照間口説-1991年竹富町指定-無形民俗文化財（波照間民俗芸能保存会）	
236	B-12	(10)まさかい節（竹富島）				真栄節-1973年竹富町指定-無形民俗文化財（竹富町民俗芸能保存会）	
237	A-1	(11)祖納岳節（西表島祖納）				祖納岳節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（西表民俗芸能保存会）	
239	A-3	(13)殿様節（西表島祖納）				殿様節-1976年竹富町指定-無形民俗文化財（船浮民俗芸能保存会）	
241	A-5	(15)真山節（西表島祖納）				真山節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（西表民俗芸能保存会）	
242	A-6	(16)ベンガンとれ（黒島）				ベンガンとれ-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（黒島民俗芸能保存会）	
243	A-7	(17)マンガニスツア（黒島）				マンガニスツア-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（黒島民俗芸能保存会）	
245	A-9	(19)越頂節（新城島）				越の頂節-1975年竹富町指定-無形民俗文化財（新城民俗芸能保存会）	
251	B-4	(25)与那国の猫小（与那国島祖納）				与那国のマヤー小節-1979年与那国町指定-無形民俗文化財（与那国町）	

4.4 琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」→沖縄県・無形民俗文化財→国・記録選択・無形民俗文化財

4.4.1 【泡瀬の京太郎】

1965 年 LP 集収録の泡瀬の京太郎(沖縄本島美里村泡瀬)は《早口説》《御知行》《馬舞さー》《鳥さし舞》の4曲である。

1958 年泡瀬の京太郎は琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」となった。

1980 年泡瀬の京太郎(保持団体:泡瀬京太郎保存会)は沖縄県の無形民俗文化財に指定された。

2005 年泡瀬の京太郎(保護団体:泡瀬京太郎保存会)は国の記録選択・無形民俗文化財となった。

4.5 琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」→沖縄県・無形民俗文化財

4.5.1 【打花鼓】

1965 年 LP 集には打花鼓(中城村伊集)が収録された。

1958 年伊集の打花鼓は琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」となった。

1985 年伊集の打花鼓(保持団体:中城村字伊集打花鼓保存会)は沖縄県の無形民俗文化財に指定された。

4.6 琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」→那覇市・無形民俗文化財

4.6.1 【首里汀良の獅子舞】

1965 年 LP 集には獅子舞(那覇市首里汀良町)が収録された。

1958 年首里汀良の獅子舞(保持者:比嘉賀真)は琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」となった。

1987 年首里汀良町の獅子舞(保存団体:首里汀良町獅子舞保存会)は那覇市の無形民俗文化財に指定された。

4.7 琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」→竹富町・無形民俗文化財

4.7.1 【八重山民俗芸能(穂利踊)】

1965 年 LP 集には黒島の笠踊、鎌踊が収録された。

1960 年八重山民俗芸能(穂利踊:笠踊・鉾踊・鎌踊・カデク舞・太楽・マキ踊)は琉球政府「助成の措置を講じた無形文化財」となった。

1975 年笠踊・鎌踊(保存団体:黒島民俗芸能保存会)は竹富町の無形民俗文化財に指定された。

4.8 沖縄県・無形文化財→国「重要無形文化財」

4.8.1 【安富祖流】

1965 年 LP 集には安富祖流の《十七八節》《諸屯(舞踊曲)〈仲間節〜諸屯節〜しよんがない節〉》《述懐節》が収録された。

1972 年沖縄伝統音楽安富祖流(保存団体:沖縄伝統音楽安富祖流保存会)は沖縄県の無形文化財に指定された。

2000 年琉球古典音楽(安富祖流)は国の「重要無形文化財」に指定された。

4.8.2 【野村流】

1965 年 LP 集には野村流の《じゃんな節》《首里節》《かぎやで風節》《恩納節》《長伊平屋節》《中城はんた前節》《こてい節》《暁節》が収録された。

1972 年沖縄伝統音楽野村流(保存団体:沖縄伝統音楽野村流保存会)は沖縄県の無形文化財に指定された。

2000 年琉球古典音楽(野村流)は国の「重要無形文化財」に指定された。

4.9 国・記録選択→国「重要無形民俗文化財」

4.9.1 【ノロの祈願のオモロ(海神祭)(大宜味村)】

1965 年 LP 集にはノロの祈願のオモロ(海神祭)(大宜味村)が収録された。

1992 年沖縄北部のウングミは国の記録選択・無形民俗文化財となった。

1997 年塩屋湾のウングミ(田港地区、屋古区、塩屋区、白浜区)は国の「重要無形民俗文化財」に指定された。

4.9.2 【小浜島の芸能】

1965 年 LP 集には小浜島の《道行の唄》《家入りの唄》《踊の唄》《阿弥陀仏》《いへらんどうさ》《ダドダーの唄》が収録された。

1995 年小浜島の芸能(保護団体:小浜民俗芸能保存会)は国の記録選択・無形民俗文化財となった。

2007 年小浜島の盆、結願祭、種子取祭の芸能(保持団体:小浜民俗芸能保存会)は国の「重要無形民俗文化財」に指定された。

4.9.3 【西表島の節祭】

1965 年 LP 集には西表島の節祭から《びょーし》《今日の誇らしや》《五尺でい》《ぐぐふわ》が収録された。

1978 年西表島祖納・星立の節祭(保護団体:西表民俗芸能保存会)は国の記録選択・無形民俗文化財となった。

1991 年西表島の節祭(保持団体:西表民俗芸能保存会)は国の「重要無形民俗文化財」に指定された。

4.9.4 【竹富島の種子取】

1965 年 LP 集には竹富島の種子どり祭から《道唄》《巻踊》《月と世ば》《稲が実の唄》《根強い唄》が収録された。

1974 年竹富島の種子取(保護団体:竹富島種子取保存会)は国の記録選択・無形民俗文化財となった。

1977 年竹富島の種子取(保持団体:竹富島種子取保存会)は国の「重要無形民俗文化財」に指定された。

4.10 町村・無形民俗文化財→沖縄県・無形文化財

4.10.1 【八重山古典民謡】

1965 年 LP 集には八重山古典民謡(節歌)から《赤馬節・しゅら節》《蔵の花節・大原越地節》《月夜浜節・舟越節》《鶯の鳥節》《やくじゃま節》《布さらし節・てんがなし節・まいのと節》《古見の浦節》《とばらま節》《白鳥節・きやいそう節》《仲筋のヌーペーマ》《ちんだら節・久場山越地節》《安里屋節》《高那節》が収録された。

上記の中で、《仲筋ぬヌーペーマ》《安里屋節》(保存団体:竹富町民俗芸能保存会)は 1973 年竹富町の無形民俗文化財に指定された。同様に、1975 年《古見の浦節》(保存団体:竹富町民俗芸能保存会)は竹富町の無形民俗文化財に指定された。

1983 年八重山古典民謡(保存団体:八重山古典民謡保持者協会)は沖縄県の無形文化財に指定された。

4.10.2 【路次楽(今帰仁村湧川)】

1965 年 LP 集には路次楽(今帰仁村湧川)が収録された。

1998 年湧川の路次楽(保存団体:湧川路次楽保存会)は今帰仁村の無形民俗文化財に指定された。

2002 年湧川の路次楽(保持団体:湧川路次楽保存会)は沖縄県の無形民俗文化財に指定された。

4.11 沖縄県・選択・文化財→平良市・無形民俗文化財

4.11.1 【みゃーくじつのアヤグ(池間島)】

1965 年 LP 集には、みゃーくじつのアヤグ(池間島)が収録された。

1981 年池間島のミャークツツ(保持団体:池間島民謡保存会)は沖縄県の選択・文化財となった。

2005 年池間島のミャークツツ(保持団体:池間島自治会)は平良市の無形民俗文化財に指定された。

5. 三隅治雄と沖縄芸能研究・舞踊公演

三隅治雄は現在も沖縄芸能・舞踊界との関わりが深く、特に舞台公演において影響を与え続けている。例えば、安富祖流絃声会会長を務め、2000 年重要無形文化財「琉球古典音楽」保持者に認定された照喜名朝一は次のように語っている。

沖縄の芸能が今日あるのは三隅先生のおかげだということ、良き理解者が沖縄へいらしてくださったことが沖縄芸能の利益になった。今まで埋もれていてほとんどなくなりそうだった唄ばかりを集めてレコードに残してくださったのが、今や大変な資料になっています。この発想も先生だからできたのだと思いま

す(1982 年 8 月『みんよう文化』26)。

そこで、本項では三隅が沖縄調査を開始し、沖縄芸能・舞踊の研究や舞台演出に携わるようになったプロセスを整理する。

なお、三隅の活動を含む LP 集『沖縄音楽総攬』、民俗芸能、文化財の関連年表は表 7 を参照されたい。

5.1 三隅治雄と沖縄との関わり

三隅は 1927 年生まれ、現在 94 歳である。国学院大学国文学科国文学科に入学後、折口信夫・西角井正慶に師事し、1950 年に卒業した。

1952 年東京文化財研究所へ入職する(三隅 1990 奥付)。1952 年「民俗芸能の会」が設立され、機関誌『芸能復興』創刊後(1～19 号:1952-1958)は編集同人を務める。

1952 年 8 月 29 日国立博物館附属美術研究所は東京文化財研究所組織規定により美術部・芸能部・保存科学部・庶務室を設置した。芸能部に郷土芸能研究室を設け、三隅と池田弥三郎が担当した(三隅 1985:14)。

1958 年 4 月三隅は「第 5 回沖縄文化講座」(於:川崎市立中央図書館)で「郷土芸能について」と題し講演した。東京で初めて組踊が披露された 1936 年「琉球舞踊古典劇公演会」(於:日本青年館)を振り返るとともに、「いまの内地の舞踊には失われている過去の本土の芸能の姿というのが、琉球の芸能に映し出されているように思われます」(三隅 1958 年 4 月 23 日)と、述べた。

1958 年 8 月 20 日～9 月 10 日三隅は本田安次と共に沖縄芸能の現地調査を初めて実施した。調査中の 8 月 24 日「琉球古典芸能鑑賞会」(於:沖縄タイムスホール)が沖縄文化協会(会長:豊平良顕)・文化財保護委員会(委員長:山里永吉)の共催で開かれた。本田による講演「沖縄芸能について」に引き続き、2 人の来島を歓迎し、琉球古典芸能鑑賞会が開催された(1958 年 8 月 25 日『沖縄タイムス』朝刊:3 参照)。「プログラムは琉球古典音楽、古典舞踊、民間芸能の 3 部で…中略…民間芸能としての古い歴史を持つ京太郎(チョンダラー)、南島踊(フェーヌシマー)、打花鼓(ターファーク)の公演は本田、三隅両氏はもちろん、郷土芸能人にも新たな感銘を与えた」(1958 年 8 月 25 日『沖縄タイムス』朝刊:3)。

同年 9 月 4 日沖縄文化協会は来島中の三隅を招き、講演会と創作舞踊観賞会(於:沖縄タイムスホール)を開催した。三隅は講演「日本芸能と琉球芸能」を行い、沖縄調査の目的を次のように語った。

このたび、沖縄にきて、知りたいと思ったことは、

1、純民俗学的な問題、信仰の研究、

2、御冠船踊りが現在、どのような動きかたで、将来にのぞもう

としているか、

3、演劇はどのような伝統をもち、どのような展開のあり方をとろうとしているか、

4、以上の過去の文化や芸能が、現在の新生活運動と、どうふれ合い、対立して苦しんでいるのか、また、外国の芸術と、どう対決しどう将来の問題を解決してゆこうとしているか

(1958年9月7日『沖縄タイムス』朝刊:4)

三隅は1958年8月20日來島以来、「八重山のアンガマーの行事を皮切りに本島各地で行われたエイサー祭りなど沖縄に古くから伝わる民俗行事をみてまわった」(1958年9月10日『沖縄タイムス』夕刊:3)。調査を終え、「沖縄に残っている民俗芸能が日本の古代社会の民俗芸能のものと形ではないかと思っていたが、八重山のアンガマー、沖縄の古典劇などにその形が残っていることがわかった」(1958年9月10日『沖縄タイムス』夕刊:3)と成果を述べた。

1958年10月4日「沖縄芸能同人会・第7回研究例会」(於:沖縄屋:東京新橋)で、8〜9月に調査した沖縄芸能と旅の印象を語った(1958年10月6日『沖縄タイムス』朝刊:3)。

1959年1月24日「東洋音楽学会第69回例会」(於:日本工業倶楽部)では「沖縄芸能の現状」と題し研究発表を行った。

1959年沖縄芸能の現地調査(1958年)の成果を5回に亘り、「報告・沖縄の芸能-南島消息(1)〜(5)-」『芸能』1巻1-3号、5-6号に掲載した。

1963年企画・監輯:森垣二郎、解説:三隅によるLP『日本民俗芸能系譜:神楽・田楽と風流』(コロムビア)が昭和38年度第18回芸術祭賞を受賞した。

1964年11月7日〜28日LP集『沖縄音楽総攬』の現地録音のため、一行5名で沖縄本島、宮古諸島、八重山諸島に滞在し、三隅は同月25日に帰京した(1.2参照)。

1965年11月20日LP集『沖縄音楽総攬』を発売し、昭和40年度第20回芸術祭参加・奨励賞を受賞した。

1966年1月8日「東洋音楽学会第132回定例研究会」(於:東京文化会館4階集会室)で、第20回芸術祭参加レコード紹介その1として、LP集『沖縄音楽総攬』を紹介した(東洋音楽学会2017:26)。

1966年12月18日琉球政府文化財保護委員会の招聘により、三隅は沖縄に滞在した。その目的は琉球古典舞踊公演(翌1967年国立劇場開催)の上演・演出に関する打ち合わせであった。26日以降は宝塚歌劇団(郷土芸能研究会)の渡辺武雄と共に久高島のイザイホーを調査した(1966年12月19日『沖縄タイムス』朝刊:7)。同年12月下旬、沖縄で公演出演者の稽古を見学後、次のような演出プランの骨子を作成した。

第一に、琉球の芸能には御冠船踊りや雑踊りを含めていろいろ

の要素が複雑にからみ合っているが、その中からまず冠船踊りが持っている日本の伝統芸能の一分野としての芸能史的意義を舞台上に鮮明に浮かびあがらせること、第二に演技・扮装・採り物等琉球舞踊の各面に色濃く潜在している宮廷・民間を問わない郷土生活を基礎にした沖縄独自の芸術の個性を幅広く表現してみること(下線部筆者)(三隅1967年2月19日)。

いよいよ本番を迎え、1967年1月26日〜29日第1回琉球舞踊公演「御冠船踊」(於:国立劇場小劇場)は制作:西角井正大、監修:本田安次、演出:三隅治雄で開催された。公演終了後、三隅は演出について「沖縄の芸能の見せ方にいろいろな疑問を持つ…中略…組踊りの人物の配置のしかた、幕、ホリゾントの利用法、あるいは組踊りの展開法、「目付」のとりかた。扮装の色彩感の配列、メイクアップの方法、伴奏のありかた等々…これは、沖縄の方にも、私にも課せられたしごとかと思う」(三隅1967年2月19日)と語った。上記の課題は第2〜4回琉球芸能公演(1968年〜1974年)を通して取り組まれた。なお、国立劇場における琉球芸能公演の変遷については高橋・川鍋2005を参照されたい。

1968年2月24日〜25日第2回琉球芸能公演「琉球歌劇」(於:国立劇場大劇場)を演出:三隅治雄・仲井真元楷で開催した。

1969年2月三隅治雄編『沖縄の芸能』を出版し、芸能の歴史と系譜「概説」は田辺尚雄、「成立と発展」は本田、「民俗と芸能」は三隅、「御冠船踊り」は仲井真元楷、「音楽の理論一調子と旋法」は山内盛彬が執筆した。

1969年7月沖縄歌舞団第1回本土縦断公演「太陽の燃える島」(構成・演出:三隅治雄)は玉城秀子他が出演し開催された。三隅は「沖縄歌舞団」は新しい時代に即応して、宮廷音楽以外にさまざまな地域の唄や踊りをもう一度見直し、沖縄の伝統芸能を舞台上に再創造して世界に示そうという目的で生まれたもの」(1982年8月『みんよう文化』20)と、解説した。

1969年「伝統芸能を守る会」沖縄舞踊(主催:民主音楽協会)(主宰:中坪功雄)が12月26日(於:共立講堂)、27日(於:渋谷公会堂)で「太陽の燃える島」(構成・演出:三隅)を上演した。

1970年9月沖縄歌舞団一行28人がソ連文化省などの招きで「太陽の燃える島」(主催:民主音楽協会)ソ連・ポーランド海外公演を開催した。「沖縄歌舞団は、沖縄の伝統芸能を守る各家元の子息、子女たちが古典の継承と発展をめざして、昨年流派をこえて結成した集団。平均年齢25、6歳の若さだが、いずれも幼時から親についてけいこを受けたというベテランぞろい」(1970年9月2日『朝日新聞』東京夕刊:9)であった。三隅によると沖縄歌舞団は「宮城美能留・真境名由邦・島袋光晴・平良進・仲嶺真実・玉城秀子・佐藤太圭子ほか」(三隅2011:284)で構成し、「のち、宮城美能留・玉城秀子の一門が主体となった」(三隅2011:284)。

1972年「沖縄の民俗芸能の分布とその分類」を『人類科学』

24 集に発表した(2.4 参照)。同年 3 月真栄田義見・三隅治雄・源武雄編『沖縄文化史辞典』（監修：琉球政府文化財保護委員会）を刊行した。三隅は主に「芸能」「言語」分野の用語解説と全体的な加筆・補訂を担当した。

1972 年 3 月 24 日～26 日第 3 回琉球芸能公演「御冠船踊と琉球歌劇」（於：国立劇場小劇場）を監修：本田安次、構成：三隅治雄で開催した。沖縄芸能の研究成果を 1972 年 12 月単著『原日本おきなわ：その歴史と芸能』に著した。

1974 年 1 月 25 日～26 日第 4 回琉球芸能公演「組踊と雑踊」（於：国立劇場小劇場）を監修：三隅治雄、制作担当：西角井正大で開催した。

1975 年沖縄歌舞団「太陽の燃える島」南米公演を開催した（1975 年 3 月 28 日『朝日新聞』東京夕刊：7）（1975 年 4 月 11 日『朝日新聞』東京朝刊：3）。

1976 年 7 月『芸能史の民俗的研究』を刊行した（1976 年 9 月 9 日『沖縄タイムス』）。

1979 年沖縄歌舞団「太陽の燃える島」ソ連・ヨーロッパ公演を開催した。

1981 年仲井幸二郎・西角井正大・三隅治雄編『民俗芸能辞典』を刊行した。1981 年 10 月～11 月沖縄歌舞団「太陽の燃える島」北米・イギリス公演を開催した（1981 年 11 月 24 日『朝日新聞』東京夕刊：11）。

平成 10 年(1998)6 月になって、下山久のエー・シー・オー沖縄が、ロシアでの日本大使館主催の日本文化祭で、わたしが構成した沖縄歌舞集『南海のムリカ星』を佐藤太圭子の舞踊構成で制作・上演し、以来この作品を、キャストを変えながら、近くは韓国・中国、遠くはアイスランド・オーストリアなどで上演を重ねて、現在に至っている(三隅 2011:284-285)。

上記の主な公演年と国は、次の通りである。

- 2002 年「ムリカ星ゆんた」琉舞創作ロシア公演(ACO 沖縄)
- 2003 年「南海のムリカ星」ロシア公演(ACO 沖縄)
- 2005 年「南海のムリカ星」韓国公演(ACO 沖縄)

2007 年 LP『沖縄音楽総攬』音源を復刻収録した CD『沖縄音楽総攬』（上下巻 16 枚組）を発売した。

2011 年 10 月『原日本おきなわ：その歴史と芸能』に加筆修正し、『原日本・沖縄の民俗と芸能史』を刊行した。

2021 年 2 月 18 日歌舞劇「沖縄燦燦」（作・演出：三隅治雄）（於：那覇市のパレット市民劇場）を上演した。「琉球舞踊や空手、音楽を取り入れた歌舞劇『沖縄燦燦』…中略…若い男女の出会いや島人に囲まれて豊かに暮らす様子を、沖縄の役者が生き生きと演じた」（2021 年 3 月 5 日『沖縄タイムス』）。

2022 年沖縄本土復帰 50 周年を記念して、2021 年「沖縄芸能

エンターテインメント・ショー『レキオス！～ぼくたちの大航海～』（原作：三隅治雄、演出：平田大一、脚本：新井章仁、音楽：イクマあきら）全国公演(企画・制作：MIN-ON)が 9 月 13 日熊本公演を皮切りに開始した。

まとめ

これまでの考察は以下の 5 点にまとめられる。

(1) スタジオ録音・フィールド録音による LP 集

LP 集『沖縄音楽総攬』は 1965 年東京文化財研究所とコロムビアの共同で制作された。現地録音は 1964 年 11 月、1965 年 6 月～7 月の 2 回に亘り、ステレオ録音方式で実施された。沖縄本島では那覇市の放送局・ラジオ沖縄の設備を活用したスタジオ録音、離島では公共・宿泊施設を活用したフィールド録音で収録された。

(2) 八重山諸島を重視した収録

LP 集の収録音源・全 279 トラックをジャンル分類した。その結果、祭祀音楽＝83 トラックが最も多く、雑歌＝61 トラック、祝唄＝23 トラックと続き、舞踊音楽と労作唄が共に 20 トラック収録されていた。演劇分野は組踊＝1 トラック、歌劇＝3 トラックであった。琉球古典音楽は野村流＝8 トラック、湛水流＝4 トラック、安富祖流＝3 トラック、口説集＝4 トラックであり、八重山諸島の節歌も 13 トラック収録されていた。

次に、275 トラック(楽劇篇 4 トラック除く)を沖縄諸島・宮古諸島・八重山諸島に分類した。結果は八重山諸島が 156 トラック：57%と全体の半数以上を占め、沖縄諸島は 73 トラック：26%、宮古諸島は 46 トラック：17%であった。さらに、島ごとに分類した結果、石垣島 48 トラック、沖縄本島 41 トラック、宮古島 26 トラック、与那国島 21 トラック、西表島 17 トラックとなった。特に、八重山諸島を重視している傾向がみられる。

(3) 全体の 16.5%は民俗芸能の歌

LP 集の最大の特徴は、民俗芸能の演舞で歌い踊る歌を多数収録した点にある。全 279 トラック中・46 トラックが民俗芸能に該当し、全体の 16.5%を占めた。三隅が 1972 年に発表した「沖縄の民俗芸能分類表」と 46 トラックを照合した結果、舞踊(カチャーシーモーイ、組歌踊、念仏踊、京太郎、獅子舞、採り物踊、太鼓踊、練り踊)＝39 トラック、演劇(長者の大主、組踊、狂言)＝7 トラックとなった。

(4) 琉球政府・助成措置と重要無形文化財の指定

琉球政府文化財保護委員会が 1956 年度～1965 年度に「助成の措置を講じた無形文化財」の中で、LP 集に収録されたのは音楽＝1 流派(古典音楽・湛水流)、民俗芸能＝5 演目(伊集の打花

鼓、泡瀬の京太郎、首里汀良の獅子舞、八重山民俗芸能・黒島「穂利踊」、南の島踊)である。

また、収録音源の中で後に国の重要無形文化財に指定されたのは、組踊(1972年)、琉球古典音楽(2000年湛水流、安富祖流、野村流)である。同じく、後に国の重要無形民俗文化財に指定されたのは、塩屋湾のウンガミ(海神祭:大宜味村)(1997年)、小浜島の芸能(2007年)、西表島の節祭(1991年)、竹富島の種子取(1977年)である。

(5) 三隅治雄による沖縄歌舞団公演

三隅は東京文化財研究所の一員として、1958年沖縄の民俗芸能、舞踊などを現地調査した。研究成果を東洋音楽学会や雑誌『芸能』で発表した後、1965年LP集『沖縄音楽総攬』制作に携わった。1967年～1974年には国立劇場における琉球芸能公演(全4回)の演出、構成、監修を務めた。また、沖縄の若手舞踊家・俳優を集めて沖縄歌舞団を結成し、1969年第1回本土縦断公演「太陽の燃える島」(構成・演出:三隅)を実施した。1970年以降、沖縄歌舞団のソ連・ヨーロッパ公演(主催:民主音楽協会)開催に導いた。1998年以降は沖縄歌舞集「南海のムリカ星」(構成:三隅)をアジア・ヨーロッパで次々に公演した。

以上により、三隅は沖縄の民俗芸能・舞踊研究の成果を、国内外の舞台公演に反映させ、現在もその影響は続いている。

謝辞

本論をまとめるにあたり、沖縄県立芸術大学附属図書館には貴重な文献・音源資料を御提供いただいた。

本研究は日本学術振興会科学研究費(平成29～32年度、基盤研究(C)17K02365:研究代表者・高橋美樹)「沖縄音楽における現地録音の歴史的研究—田辺尚雄からLP『沖縄音楽総攬』までの助成を受けたものである。

注

- 1) 1957年「45—45方式とよばれるディスクレコードのステレオ録音方式が提案され、ディスクレコードの標準方式となった」(吉川2021)。具体的には「ロンドン・レコードとウェストレックスとで、〈ステレオ stereo(立体録音)〉レコードが発売されて、臨場感にとんだ、音の広がりや分離のよい再生が誕生して、現在のステレオ時代を現出させた」(村田1997:610)。翌1958年ビクターが日本で初めてステレオLPを発売した(倉田1979:494)(1958年8月1日『朝日新聞』夕刊:3)。
- 2) 組踊「森川の子(花売の縁)」の配役は▽森川の子:玉城盛義、▽乙樽:宮城能造、▽鶴松:中村ミツエ、▽猿引:島袋光裕、▽薪とり:真境名由康である(1960年2月18日『琉球新報』夕刊:3参照)。

3) 本公演の演目は阪急文化アーカイブズ <http://www.hankyu-bunka.or.jp/archive/>でも確認できる。

4) 詳細は組踊・文化遺産データベース(文化庁)を参照されたい。
<https://bunka.nii.ac.jp/db/heritages/detail/171461>

参考文献

- 池田榮史 2008「沖縄における文化財保護行政の歩み」『国学院大学考古学資料館紀要』24巻、pp.163-173
- 伊波普猷 1911『古琉球』沖縄論社
- 浦原啓作 1970『八重山ユンタ集』音楽之友社
- 榎本由喜雄 2019「無形文化財」『日本大百科全書』小学館
- 沖縄県教育委員会編 1996『沖縄の文化財 IV 無形・民俗文化財編』沖縄県教育委員会
- 沖縄県教育庁文化財課編 2021『みんなの文化財図鑑 無形文化財・民俗文化財編』沖縄県教育委員会
- 金井喜久子 1954『琉球の民謡』1954 音楽之友社(2006 復刻発売)
- 喜舎場永珣 1924『八重山島民謡誌』郷土研究社
- 倉田喜弘 1979『日本レコード文化史』東京書籍
- 笹原亮二 1990「奇妙な舞台・微妙な舞台—民俗芸能大全と民俗芸能研究者」『民俗芸能研究』12号、民俗芸能学会、pp.13-17
- 新城徳祐 1962「無形文化財『民俗芸能公開について』琉球政府文化財保護委員会編『文化財要覧 1962年版』琉球政府文化財保護委員会、pp.55-63
- 園原謙 2000「沖縄県の文化財保護史—昭和初期から琉球政府時代の活動を中心に」『沖縄県立博物館紀要』26号、pp.113-155
- 高橋美樹・川鍋かつら 2005「国立劇場における琉球芸能公演の変遷—1967年～2002年全10回公演記録より—」『沖縄県立芸術大学音楽学研究誌ムーサ』6号、pp.25-42
- 高橋美樹 2007「沖縄音楽レコード制作における〈媒介者〉としての普久原朝喜—1920-40年代・丸福レコードの実践を通して—」『ポピュラー音楽研究』10号、日本ポピュラー音楽学会、pp.58-79
- 高橋美樹 2012a「沖縄音楽レコードにおける〈媒介者〉の機能—1930年代・日本コロムビア制作のSP盤を対象として—」細川周平編著『民謡からみた世界音楽—うたの地脈を探る』ミネルヴァ書房、pp.175-192
- 高橋美樹 2012b「異郷で聴く沖縄民謡—北米・南米へ越境した丸福レコード—」『高知大学教育学部研究報告』72号、pp.137-149
- 高橋美樹 2015「《安里屋ユンタ》の伝播・普及プロセス—レコードの分析を中心として—」『高知大学教育学部研究報告』75号、pp.203-232
- 高橋美樹 2016「日系新聞にみるブラジル沖縄系移民のレコード制作—1930年代～1950年代を中心として—」『高知大学教育学部研究報告』76号、pp.189-208

高橋美樹 2017 「田辺尚雄の沖縄・八重山諸島音楽現地調査(1922年) — 「田辺文庫」を基礎資料として—」『高知大学教育学部研究報告』77号、pp. 149-177

高橋美樹 2019 「田辺尚雄における沖縄・八重山諸島音楽現地調査(1922年)の成果と社会的還元 — JOAK「日本音楽史講座」、歌舞伎舞踊劇『与那国物語』をめぐって—」『高知大学教育学部研究報告』79号、pp. 203-232

高橋美樹 2020 「沖縄県立芸術大学附属図書館田辺文庫所蔵・SPレコード目録 — 田辺尚雄旧蔵・最古の沖縄音楽レコードを探る—」『高知大学教育学部研究報告』80号、pp. 255-292

田原久 2021 「民俗文化財」『日本大百科全書』小学館

當間一郎 2021 「御冠船踊」『日本大百科全書』小学館

東洋音楽学会 2017 『東洋音楽学会創立 80 周年記念記録集 2 (例会・定例研究会篇)』

西角井正慶 1965 年 11 月 「沖縄音楽総攬」『芸能』7 卷 11 号、芸能学会、p. 64

俵木悟 2013 「第七章あるとき君は〈無形文化財〉だった—文化財としての民俗芸能の昭和三〇〜四〇年代」『世界遺産時代の民俗学』風響社、pp. 215-238

文化財保護委員会 1956 『郷土芸能(昭和 31 年)』(芸術祭主催公演パンフレット) 日本青年館

三隅治雄 1958 年 4 月 23 日 「郷土芸能について(1)琉球芸能にみる失われた日本芸能のよさ」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4

三隅治雄 1958 年 4 月 24 日 「郷土芸能について(2)初期の歌舞伎の影響」『沖縄タイムス』朝刊、p. 8

三隅治雄 1959 年 2 月 「沖縄の伝統芸能の現状と日本の芸能」『観世』26 卷 2 号、桧書店、pp. 1-5

三隅治雄 1959 年 2 月 「報告・沖縄の芸能-南島消息(1)-」『芸能』1 卷 1 号、芸能発行所、pp. 48-53

三隅治雄 1959 年 3 月 「報告・沖縄の芸能-南島消息(2)-」『芸能』1 卷 2 号、芸能発行所、pp. 60-63

三隅治雄 1959 年 4 月 「報告・沖縄の芸能-南島消息(3)-」『芸能』1 卷 3 号、芸能発行所、pp. 64-68

三隅治雄 1959 年 6 月 「報告・沖縄の芸能-南島消息(4)-」『芸能』1 卷 5 号、芸能発行所、pp. 56-59

三隅治雄 1959 年 7 月 「報告・沖縄の芸能-南島消息(5)-」『芸能』1 卷 6 号、芸能発行所、pp. 67-70

三隅治雄 1965 「編集のことば」LP16 枚集『沖縄音楽総攬』pp. 23-24(日本コロムビア、CLS-5024~39)

三隅治雄 1967 年 2 月 19 日 「沖縄芸能を見て/演出者の立場から/沖縄独自の個性をいかに」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4

三隅治雄編 1969 『沖縄の芸能』邦楽と舞踊出版部

三隅治雄 1972a 『原日本おきなわ: その歴史と芸能』第三文明社

三隅治雄 1972b 「沖縄の民俗芸能の分布とその分類」『人類科学』24 集、九学会連合、pp. 35-79(三隅治雄 1976 「沖縄の民俗芸能

の分布とその分類」『芸能史の民俗的研究』東京堂出版、pp. 303-371)

三隅治雄 1985 「民俗芸能研究の歴史と現状と展望」『民俗芸能研究』1 号、民俗芸能学会、pp. 4-22

三隅治雄 1990 『日本の民謡と舞踊』大阪書籍・朝日カルチャーブックス: 奥付

三隅治雄 2011 『原日本・沖縄の民俗と芸能史』沖縄タイムス社

宮良長包・宮良当壮 1928 『八重山古謡』郷土研究社

村田武雄 1997 「レコード」『新音楽辞典 楽語』音楽之友社、pp. 608-610

山内盛彬 1959 『民俗芸能全集 第 1: 琉球の音楽芸能史』民俗芸能全集刊行会

山内盛彬 1962 『民俗芸能全集 第 2: 民俗と旋法: 五度旋法論の原理で解く』民俗芸能全集刊行会

山内盛彬 1963 『民俗芸能全集 第 3: 琉球の舞踊と護身舞踊』民俗芸能全集刊行会

山内盛彬 1964 『民俗芸能全集 第 4: 琉球王朝古謡秘曲の研究: 手写本』民俗芸能全集刊行会

山内盛彬 1965 『民俗芸能全集 第 5: 琉球の日本古箏楽段物類: 三線工工四と五線』民俗芸能全集刊行会

山内盛彬 1965 『民俗芸能全集 第 6: 琉球欽定楽譜湛水流: 声楽工工四と五線』民俗芸能全集刊行会

矢野輝雄 1988 「沖縄舞踊年表」『沖縄舞踊の歴史』築地書館 pp. 240-253

矢野輝雄 2001 『組踊への招待』琉球新報社

吉川昭吉郎 2021 「ステレオ再生装置」『日本大百科全書』小学館

吉田純子 2012 「『10 年芸能セミナー 講演 沖縄芸能と文化財行政』『藝能』18 号、pp. 41-48

琉球政府文化財保護委員会編 1959 『文化財要覧 1959 年版』琉球政府文化財保護委員会

琉球政府文化財保護委員会編 1962 『文化財要覧 1962 年版』琉球政府文化財保護委員会

琉球政府文化財保護委員会編 1966 『文化財要覧 1965 年版』琉球政府文化財保護委員会

1957 年 6 月 30 日 「民俗芸能と資料残そう/文化財保護委乗出す/五カ年計画で調査」『朝日新聞』夕刊、p. 3

1958 年 8 月 1 日 「ステレオレコード発売/ビクター」『朝日新聞』夕刊、p. 3

1958 年 8 月 25 日 「本田・三隅両氏迎え郷土芸能鑑賞会/すばらしい民謡舞踊/正しい継承を示唆する」『沖縄タイムス』朝刊、p. 3

1958 年 9 月 5 日 「沖縄は生きた古典/きのう三隅氏の講演会」『沖縄タイムス』朝刊、p. 7

1958 年 9 月 7 日 「日本芸能の現状と沖縄の芸能/三隅治雄氏の講演から(1)/民俗資料の多い沖縄」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4

- 1958 年 9 月 9 日「日本芸能の現状と沖縄の芸能/三隅治雄氏の講演から(2)/大切な芸術記録と保存」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4
- 1958 年 9 月 10 日「沖縄の民俗を映画に/文化財研究の三隅氏帰る」『沖縄タイムス』夕刊、p. 3
- 1958 年 10 月 6 日「【東京】真剣な沖縄の舞踊界、/三隅氏『沖縄の印象』を語る」『沖縄タイムス』朝刊、p. 3
- 1960 年 2 月 18 日「“お冠船踊り”を再現/日本政府文化財調査団を迎えて」『琉球新報』夕刊、p. 3
- 1960 年 3 月 29 日「琉球文化財の保護/文部省文化財調査団来島」『琉球新報』朝刊、p. 5
- 1962 年 3 月 21 日「沖縄の民族芸能を調査/今月末に 2 人派遣/文部省の文化財保護委」『沖縄タイムス』夕刊、p. 8
- 1962 年 3 月 31 日「民俗芸能を公演/文保委 10 周年記念に」『琉球新報』朝刊、p. 5
- 1962 年 4 月 3 日「伊江のシテナ節など/民俗芸能の粋をご披露」『琉球新報』朝刊、p. 7
- 1962 年 4 月 3 日「未公開の民俗芸能/素朴な踊りで観衆魅了」『沖縄タイムス』朝刊、p. 7
- 1964 年 11 月 3 日「邦楽レコードの生き字引き/あす紫綬褒章を受ける森垣二郎さん/沖縄へ民謡取材に」『東京新聞』夕刊
- 1964 年 11 月 4 日「“琉球の歌”を LP に/森垣、三隅氏が画期的な試み」『沖縄タイムス』朝刊、p. 7
- 1964 年 11 月 7 日「琉球民俗芸能を収録/日本コロムビア社技術陣が今日来沖」『琉球新報』朝刊、p. 5
- 1964 年 11 月 8 日「沖縄の芸能を録音/森、三隅氏らが来沖」『琉球新報』朝刊、p. 7
- 1964 年 11 月 11 日「幅広く琉歌を収録/森垣、三隅ら五氏来島」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4
- 1964 年 11 月 20 日「三百余曲を収録/先島民謡コロムビアの一行帰郷」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4
- 1964 年 11 月 26 日「全琉から 4 百曲収録/日本コロムビア社古典音楽、民謡芸能など」『琉球新報』朝刊、p. 5
- 1964 年 11 月 28 日「五百年前の首里古謡/コロムビア調査班が録音」『琉球新報』夕刊、p. 4
- 1964 年 11 月 29 日「“亡びゆく琉球民謡”/コロムビアが五百曲収録」『沖縄タイムス』朝刊、p. 11
- 1965 年 6 月 29 日「琉球民謡を収録/コロムビア・レコード社が」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4
- 1965 年 7 月 14 日「『琉球の民謡』千余曲を収録/コロムビア社」『沖縄タイムス』夕刊、p. 3
- 1965 年 7 月 16 日「掘り出された沖縄の歌/全琉各地で収録/コロムビア取材班 11 月に LP 盤を製作/わらべ歌から組踊りまで」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4
- 1965 年 11 月 18 日「琉球音楽を広く紹介/古典・民俗・民謡など 400 曲/コロムビア芸術祭作品近く発売」『沖縄タイムス』朝刊、p. 11
- 1965 年 11 月 20 日「解説書」LP16 枚集『沖縄音楽総覧』(コロムビア、CLS-5024~39)
- 1966 年 12 月 19 日「イザイホーを研究/三隅、渡辺両氏が来島」『沖縄タイムス』朝刊、p. 7
- 1967 年 5 月 26 日「初の無形文化財に/組踊 5 番/文保委/伝統技術の保存強化へ」『沖縄タイムス』朝刊、p. 9
- 1967 年 6 月 3 日「組踊 5 番を無形文化財に/技保持者 15 人を認定/新たに保存会をつくる」『沖縄タイムス』朝刊、p. 8
- 1967 年 6 月 7 日「組踊 5 番を指定/文保委/重要無形文化財に」『沖縄タイムス』朝刊、p. 4
- 1967 年 6 月 18 日「伝承者の養成へ/組踊り保存会技能保持者が分担指導」『沖縄タイムス』朝刊、p. 6
- 1969 年 7 月 18 日「沖縄を演出する/三隅治雄氏/西角井正大氏/国立劇場で沖縄芸能公演」『沖縄タイムス』朝刊、p. 10
- 1969 年 2 月 28 日「読書/組踊の型も写真紹介/三隅治雄編/沖縄の芸能」『琉球新報』朝刊、p. 12
- 1970 年 9 月 2 日「初の本格的海外公演へ/沖縄歌舞団/古典伝承に若手結集/芸能」『朝日新聞』(東京)夕刊、p. 9
- 1972 年 3 月 25 日「宮廷舞踊なども重文指定へ/沖縄の文化財/重要文化財」『朝日新聞』p. 22
- 1972 年 3 月 26 日「天声人語/沖縄の『組踊』重要無形文化財」『朝日新聞』p. 1
- 1973 年 10 月 27 日「民俗芸能 30 件を記録/文化庁/無形文化財/勢里客の獅子舞」『朝日新聞』p. 22
- 1973 年 12 月 11 日「(1)真境名由康/一徹に組踊守る 84 歳」『朝日新聞』夕刊、p. 9
- 1975 年 3 月 28 日「沖縄歌舞団が南米へ/舞踊」『朝日新聞』(東京)夕刊、p. 7
- 1975 年 4 月 11 日「すごい人気、沖縄歌舞団/ブラジル」『朝日新聞』(東京)朝刊、p. 3
- 1975 年 11 月 8 日「名勝/民俗芸能/文化財・記念物/多良間島の八月踊り」『朝日新聞』p. 22
- 1976 年 9 月 9 日「“芸能史の民俗的研究”の三隅治雄氏/民俗芸能の採訪 30 年」『沖縄タイムス』
- 1981 年 11 月 24 日「“土俗的なユーモア”で米・カナダの心を魅了/宮城美能留・沖縄歌舞団」『朝日新聞』(東京)夕刊、p. 11
- 1982 年 8 月「三隅治雄のみんなよう対談:玉城秀子・照喜名朝一」『みんなよう文化』NO. 50、サンケイ出版 PR、pp. 20-26
- 1993 年 7 月 1 日「沖縄の多彩な民謡を CD に/本島と周辺の島々の貴重な 63 曲を収容」『朝日新聞』夕刊、p. 20
- 2007 年 10 月 16 日「幻のレコードを再販/三隅治雄」『沖縄タイムス』朝刊、p. 21
- 2008 年 4 月 3 日「沖縄伝統音楽 300 曲を CD 化/三線やわらべ唄など/コロムビア」『朝日新聞』p. 21

2010 年 11 月 17 日「ユネスコ無形文化遺産『組踊』と『結城紬』
決定/国内計 18 件」『朝日新聞』p. 37
2012 「重要無形民俗文化財」『情報・知識 imidas 2018』集英社
2021 「選択無形民俗文化財」『デジタル大辞泉』小学館
2021 「ステレオレコード」『デジタル大辞泉』小学館
2021 年 3 月 5 日「役者はつらつ/観客一体/投げ銭方式で『楽し
さ共有』『沖縄燦燦』公演」『沖縄タイムス』
2021 「節歌」『百科事典マイペディア』平凡社

参考音源

LP16 枚集『沖縄音楽総攬』（コロムビア、CLS-5024～39、1965）
CD『甦る沖縄の歌ごえ/宮廷音楽・沖縄本島編』
（コロムビア、COCF-10551～2、1993）
CD『甦る沖縄の歌ごえ/宮古・八重山諸島編』
（コロムビア、COCF-10553～4、1993）
CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓(上)』
（コロムビア、COCJ-30859～60、2000）
CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓(下)』
（コロムビア、COCJ-30861～62、2000）
CD『沖縄音楽総攬(上巻)(CD4 枚入り)2 組』
（コロムビア、COCJ-34505～12、2007）
CD『沖縄音楽総攬(下巻)(CD4 枚入り)2 組』
（コロムビア、COCJ-34513～20、2007）
CD『SP 盤復元による沖縄音楽の精髓(1) (2) (3) (4)』
（コロムビア、COCJ-35012～15、2008）
CD『かなす ウチナー』（コロムビア、COCJ-40464、2018）
CD『かなす ミャーク』（コロムビア、COCJ-40465、2018）
CD『かなす ヤイマ』（コロムビア、COCJ-40466、2018）
CD『ハイサイ！ 沖縄』（コロムビア、COCJ-40467、2018）

参考 URL

レキオス！～ぼくたちの大航海～民主音楽協会(民音)
<https://www.min-on.or.jp/special/2021/lequios/>

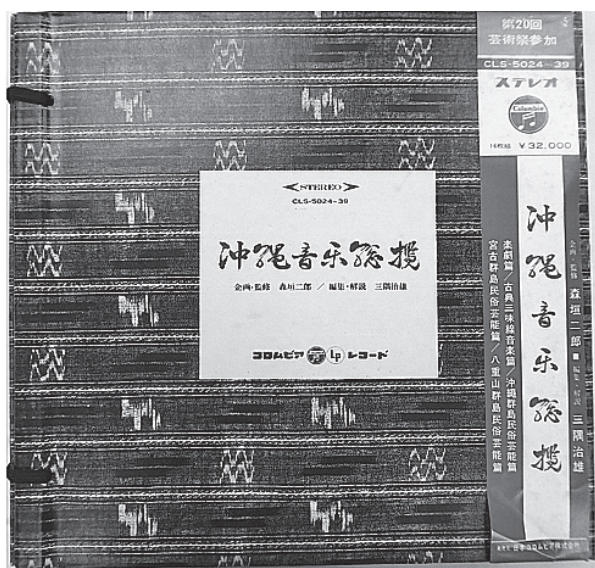


写真1 LP集『沖縄音楽総攬』ジャケット:1965年

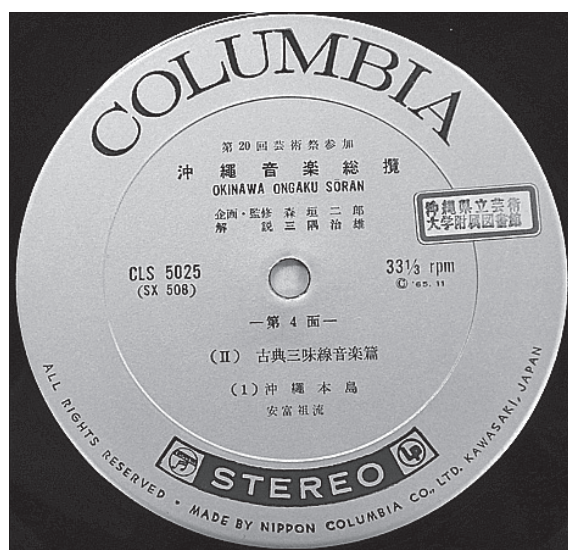


写真4 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5025:4面:1965年



写真2 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5024:2面:1965年



写真5 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5026:6面:1965年



写真3 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5025:3面:1965年



写真6 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5028:10面:1965年



写真7 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5029:12面:1965年



写真10 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5033:20面:1965年



写真8 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5031:16面:1965年



写真11 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5034:22面:1965年



写真9 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5032:17面:1965年



写真12 LP集『沖縄音楽総攬』コロムビア
CLS-5035:24面:1965年

表1 LP集『沖縄音楽総覧』ディスクグラフィー 2021.9.13 作成：高橋美樹

No	盤面	大分類	中分類	小分類	曲名・項目名	歌手・演奏者	レコード番号	CD『聴る沖縄の歌ごえ』	CD『沖縄音楽総覧』	CD『かなす』
1	A	(1) 楽劇篇	(1) 短踊	大川敵討	大川敵討	[音楽] 大浜きく・奥間盛正・川田松夫・[乙樽] 親泊興照・[満綱] 与那覇政牛・[石川] 西平守模・[谷奈の抜司] 鳥袋光裕・[門番] 西平守模	CLS-5024		COCJ-34505	
2	A	(1) 楽劇篇		泊阿嘉	泊阿嘉・序幕・伊佐殿内の門前の場・アカチラ浜の場	[音楽] 大浜きく・山川千代治・川田松夫・[下男] 山川千代治・[伊佐の思鶴] 伊良波牙子・[思鶴の乳母] 伊波清子・[船頭/思鶴の父] 吉ノ浦朝次・[阿嘉] 親泊興照・[阿嘉の父] 宮城能造	CLS-5024		COCJ-34505	
3	A-1	(1) 楽劇篇	(2) 歌劇	泊阿嘉	泊阿嘉・第五幕・遺言状連歌の場	[音楽] 大浜きく・山川千代治・川田松夫・[下男] 山川千代治・[伊佐の思鶴] 伊良波牙子・[思鶴の乳母] 伊波清子・[船頭/思鶴の父] 吉ノ浦朝次・[阿嘉] 親泊興照・[阿嘉の父] 宮城能造	CLS-5024		COCJ-34505	
4	B-2	(1) 楽劇篇	(2) 歌劇	泊阿嘉	泊阿嘉・大詰 墓前の場	[音楽] 大浜きく・山川千代治・川田松夫・[下男] 山川千代治・[伊佐の思鶴] 伊良波牙子・[思鶴の乳母] 伊波清子・[船頭/思鶴の父] 吉ノ浦朝次・[阿嘉] 親泊興照・[阿嘉の父] 宮城能造	CLS-5024		COCJ-34505	
5	A-1	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	湛水流	(1) 作田節	唄・三味線・奥間盛正・琴・龜谷ウト	CLS-5025	COCF-10551	COCJ-34506	COCJ-35014
6	A-2	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	湛水流	(2) 早作田節(下げ出し)	唄・三味線・奥間盛正・琴・龜谷ウト	CLS-5025	COCF-10551	COCJ-34506	COCJ-35014
7	A-3	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	湛水流	(3) 早作田節(上げ出し)	唄・三味線・奥間盛正・琴・龜谷ウト	CLS-5025	COCF-10551	COCJ-34506	COCJ-35014
8	A-4	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	湛水流	(4) 場作田節	唄・三味線・奥間盛正・琴・龜谷ウト	CLS-5025		COCJ-34506	COCJ-35014
9	B-1	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	安富組流	(1) 十七八節	唄・三味線・宮里春行・琴・多和田スミ	CLS-5025	COCF-10551	COCJ-34506	COCJ-35014
10	B-2	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	安富組流	(2) 諸屯(舞踊曲) 〈仲間節〜諸屯節 へしよんがない節〉	唄・三味線・大城助吉・宮里春行・琴・多和田スミ	CLS-5025		COCJ-34506	
11	A-1	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	安富組流	(3) 述懐節	唄・三味線・宮里春行・琴・多和田スミ	CLS-5025	COCF-10551	COCJ-34507	
12	A-2	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(1) じゃんな節	唄・三味線・伊差川世瑞	CLS-5026		COCJ-34507	
13	A-3	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(2) 中里節	唄・三味線・伊差川世瑞	CLS-5026	COCF-10551	COCJ-34507	
14	B-1	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(3) かぎやで風節	唄・三味線・川田松夫・琴・与藤小枝子	CLS-5026	COCF-10551	COCJ-34507	COC-40464
15	B-2	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(4) 愚歌節	唄・三味線・川田松夫・琴・与藤小枝子	CLS-5026		COCJ-34507	
16	B-3	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(5) 長伊平屋節	唄・三味線・川田松夫・琴・与藤小枝子	CLS-5026		COCJ-34507	
17	B-4	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(6) 中城はんた前節	唄・三味線・川田松夫・琴・与藤小枝子	CLS-5026		COCJ-34507	
18	B-5	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(7) こてい節	唄・三味線・川田松夫・琴・与藤小枝子	CLS-5026		COCJ-34508	
19	A-1	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	野村流	(8) 曉節	唄・三味線・川田松夫・琴・与藤小枝子	CLS-5027		COCJ-34508	
20	A-2	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	口説集	(1) 上り口説	唄・三味線・城間徳太郎・大山一夫・安富組竹久	CLS-5027	COCF-10551	COCJ-34508	COC-40464
21	A-3	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	口説集	(2) 四季口説	唄・安富組竹久・唄・三味線・城間徳太郎	CLS-5027		COCJ-34508	
22	A-4	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	口説集	(3) 大願口説	唄・三味線・大山一夫	CLS-5027		COCJ-34508	
23	A-5	(1) 古典三味線音楽篇	(1) 沖縄本島	口説集	(4) 道輪口説	唄・三味線・安富組竹久	CLS-5027		COCJ-34508	
24	B-1	(1) 古典三味線音楽篇	(2) 八重山		(1) 赤馬節・しゅら節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5027	COCF-10553	COCJ-34508	
25	B-2	(1) 古典三味線音楽篇	(2) 八重山		(2) 蔵の花節・大原越地節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5027		COCJ-34508	
26	B-3	(1) 古典三味線音楽篇	(2) 八重山		(3) 月夜浜節・舟越節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5027		COCJ-34508	
27	A-1	(1) 古典三味線音楽篇	(2) 八重山		(4) 鷺の鳥節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028	COCF-10553	COCJ-34509	
28	A-2	(1) 古典三味線音楽篇	(2) 八重山		(5) やくじやま節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028		COCJ-34509	

29	A-3	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(6)布さしり節・てんがなし節・まいのと節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028	COCF-10553	COCJ-34509	
30	A-4	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(7)古見の浦節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028	COCF-10553	COCJ-34509	
31	A-5	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(8)とばらま節	唄・平良幸・唄・三味線・大浜賢扶	CLS-5028	COCF-10553		
32	B-1	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(9)白鳥節・きゃいそう節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028		COCJ-34509	
33	B-2	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(10)仲筋のヌーベーマ	唄・平良幸・唄・三味線・大浜賢扶	CLS-5028		COCJ-34509	
34	B-3	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(11)ちんだら節・久場山越地節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028	COCF-10553	COCJ-34509	
35	B-4	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(12)安里屋節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028		COCJ-34509	
36	B-5	(I) 古典三味線音楽篇	(2)八重山	(13)高那節	横笛・大浜源吉・太鼓・国吉長扶・唄・三味線・大浜賢扶・玉代勢長伝	CLS-5028		COCJ-34509	
37	A-1	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(1)ノロの折願のオモロ(海神祭)(大宜味村)	山城トヨ	CLS-5029		COCJ-34510	COC-40464
38	A-2	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(2)ウンジャミの唄(海神祭)(大宜味村)	宮城アキ、山城トヨ、島袋マツ	CLS-5029		COCJ-34510	
39	A-3	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(3)大弓(海神祭)(大宜味村)	宮城アキ、山城トヨ、島袋マツ	CLS-5029		COCJ-34510	
40	A-4	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(4)死者送別のオモロ(勝連村平安名)	伊礼キミ、柴間サヨ、比嘉ヨシ	CLS-5029		COCJ-34510	COC-40464
41	A-5	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(1)しち福(上本部村具志堅)	上間君江、仲里ウシ、具志堅ウシ・小波津タマ、照屋ウタ、照屋カメ、金城ハナ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	COC-40464
42	A-6	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(2)天のぼり星(上本部村具志堅)	上間君江、仲里ウシ、具志堅ウシ・小波津タマ、照屋ウタ、照屋カメ、金城ハナ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
43	A-7	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(3)いんちやサ(上本部村具志堅)	上間君江、仲里ウシ、具志堅ウシ・小波津タマ、照屋ウタ、照屋カメ、金城ハナ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
44	A-8	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(4)うでけらし(上本部村具志堅)	上間君江、仲里ウシ、具志堅ウシ・小波津タマ、照屋ウタ、照屋カメ、金城ハナ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
45	A-9	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(1)天親田クエーナ(玉城村仲村梁)	大城佐清、崎間福次郎	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
46	A-10	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(2)大城クエーナ(那覇市首里金城)	国吉貞子、長嶺ソル、長嶺ナエ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
47	A-11	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(3)うりじんクエーナ(那覇市首里金城)	国吉貞子、長嶺ソル、長嶺ナエ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	COC-40464
48	A-12	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	雨乞(津堅島)	東かつ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	COC-40464
49	A-13	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(2)行事音楽	ハーリー唄・ふっやーにー唐歌(那覇市泊)	仲本興徳、仲本眞正、外間政順、屋良朝順、島袋千松、新崎睦長	CLS-5029	COCF-10552	COCJ-34510	
50	A-14	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(2)行事音楽	国頭さばくい(名護町城)	山入端亀助、比嘉房子、比嘉治三、比嘉静子、高良とみ	CLS-5029	COCF-10552	COCJ-34510	COC-40464
51	B-1	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	(1)路次楽(今帰仁村湧川)	与儀富三、大城三郎、嶺井政明、川上清孝	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	COC-40464
52	B-2	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	(2)長者の大王(今帰仁村)	嘉手納秀一、新城徳祐、金城義尊	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
53	B-3	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	(3)しんずう節(佐敷村手登根)	嘉数勝福、宮城源太郎、平田沢益	CLS-5029		COCJ-34510	
54	B-4	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	(1)臼太鼓(大宜味村喜如嘉)	前田マツ、平良カマド、平良栄子、金城カマド	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
55	B-5	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	(2)臼太鼓(津堅島)	古嘉屋カメ、宮城 静、東かつ	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	COC-40464
56	B-6	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	スリスリ節(東風平村富森)	具志堅ノブ、森田トシ、神谷ウシ、野原ウシ、野原ウタ、野原ゴザ	CLS-5029		COCJ-34510	COC-40464
57	B-7	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	南の島(那覇市安里)	新垣正連、玉井亀吉、玉井栄良	CLS-5029	COCF-10551	COCJ-34510	
58	B-8	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	獅子舞(那覇市首里丁良町)	与儀善祥、伊佐善美雄、松良敬明信	CLS-5029	COCF-10551		
59	B-9	(II) 沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	(1)エイサー(念奴(佐敷村手登根))	宮城源太郎	CLS-5029		COCJ-34510	

60	A-1	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	エイサー	(2)七月エイサー (大宜味村喜如嘉)	前田ウシ、前田セツ、前田マツ、吉浜ハツ、大山ヨシ、山城マツ、平良エイ子、金城カマド、金城田	CLS-5030	COCF-10551	COCJ-34511		COC-40464
61	A-2	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	打花鼓	打花鼓 (中城村伊集)	井口浦戸、新垣一夫、新垣徳俊、新垣徳真、新垣盛市、新垣隆盛	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		COC-40464
62	A-3	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	唐踊	(1)大踊(津堅島)	大城浦太、松根善吉	CLS-5030		COCJ-34511		
63	A-4	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	唐踊	(2)ひとと(津堅島)	大城浦太、松根善吉	CLS-5030		COCJ-34511		
64	A-5	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(1)早口説(本島美里村泡瀬)	京太郎保存会	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		COC-40464
65	A-6	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(2)御知行(本島美里村泡瀬)	京太郎保存会	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		COC-40464
66	A-7	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(3)馬舞さー(本島美里村泡瀬)	京太郎保存会	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
67	A-8	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(3)舞踊音楽	京太郎	(4)鳥さし舞(本島美里村泡瀬)	京太郎保存会	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
68	B-1	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(4)労作唄		(1)米びき唄(本島大宜味村喜如嘉)	前田ウシ、前田セツ、前田マツ、山城マツ、平良エイ子、金城カマド	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
69	B-2	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(4)労作唄		(2)砂持唄(伊江島)	与那城忠吉、大城ウシヤ、山城文男、東江トシ	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
70	B-3	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(5)連唄		きーぶぞう(伊江島)	与那城忠正、山城文男	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		COC-40464
71	B-4	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(1)今帰仁みやーくに(本島今帰仁村)	上間幸枝、新城徳祐	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
72	B-5	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(2)日間当節(本島久志村汀間)	中山興真	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
73	B-6	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(3)ましゅんく節(伊江島)	与那城忠吉、大城ウシヤ、山城文男、東江トシ	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
74	B-7	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(4)してな節(伊江島)	与那城忠吉、与那城忠正	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
75	B-8	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(5)海のチンポーラ(伊江島)	与那城忠正、山城文男	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		COC-40464
76	B-9	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(6)木綿花節(久米島)	久永つね子、内間仁守、山城幸、福里広照	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
77	B-10	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(7)仲地はんた節(久米島)	内間仁守、福里広照	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
78	B-11	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(6)雑歌		(8)久米何蓋節(久米島)	久永つね子、内間仁守、山城幸、福里広照	CLS-5030	COCF-10552	COCJ-34511		
79	A-1	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(7)毛遊び		もうあそびの歌・あがりかたさー よ・谷茶節・かなよー天川・あつ ちゃめい・多幸山・唐船どーい(那覇市)	国場徳八、大城助吉、山内秀雄、新城徳祐、渡口光雄、照喜名朝一、金城武信	CLS-5031	COCF-10552	COCJ-34512		COC-40464
80	A-2	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(7)毛遊び		越来節(コザ市山内)	島袋清善	CLS-5031		COCJ-34512		
81	A-3	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(8)現代沖縄の三味線歌		生れ島(作詞・作曲:喜屋武繁雄)(那覇市)	津波古信行、稻福善徳、西原篤一	CLS-5031				
82	A-4	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(8)現代沖縄の三味線歌		四季の唄(作詞・作曲:宮城栄吉)(那覇市)	比嘉春子、嘉手刈林昌、小浜守米、玉栄千代	CLS-5031		COCJ-34509		
83	B-1	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(8)現代沖縄の三味線歌		とばらま(那覇市)	大浜みね、大浜安伴、大浜長栄	CLS-5031				
84	B-2	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(8)現代沖縄の三味線歌		安里屋エンタ(那覇市)	嘉手刈林昌、小浜守米、比嘉春子、玉栄千代	CLS-5031				
85	B-3	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(9)わらべ唄		(1)子守唄(2曲)(山原地方)	新城み江、新城由紀	CLS-5031	COCF-10552	COCJ-34512		
86	B-4	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(9)わらべ唄		(2)子守唄(3曲)(大宜味村喜如嘉)	前田セツ、平良エイ子、金城カマド	CLS-5031	COCF-10552	COCJ-34512		COC-40464
87	B-5	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(9)わらべ唄		(3)子守唄(1曲)(伊江島)	与那城忠正	CLS-5031	COCF-10552	COCJ-34512		
88	B-6	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(9)わらべ唄		(4)子守唄とわらべ唄(15曲)(那覇市首里)	城西小学校合唱部(指揮:渡名喜あきら)、仲本百合子、仲村真理子、佐々木京子、善向みや子、喜屋武順子、比知多美子、比知道子、渡名喜光子、西平康子、高宮城睦子	CLS-5031	COCJ-34512			
89	B-7	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(9)わらべ唄		(5)わらべ唄(6曲)(今帰仁村)	新城み江、新城由紀	CLS-5031	COCF-10552	COCJ-34512		COC-40464
90	B-8	ⅡⅢ	沖縄群島民俗芸能篇	(9)わらべ唄		(6)わらべ唄(5曲)(大宜味村喜如嘉)	前田ウシ、前田セツ、前田マツ、山城マツ、平良エイ子、金城カマド	CLS-5031	COCF-10552	COCJ-34512		COC-40464
91	A-1	ⅡⅣ	宮古群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	みやーくじつ	みやーくじつのアヤグ(池間島)	前泊徳正、友利金助	CLS-5032		COCJ-34513		COC-40465
92	A-2	ⅡⅣ	宮古群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	正月のアヤグ	(1)正月のアヤグ(池間島)	勝連キヨ	CLS-5032		COCJ-34513		
93	A-3	ⅡⅣ	宮古群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	正月のアヤグ	(2)1祭のアヤグ(宮古島・平良市)	古堅宗雄	CLS-5032		COCJ-34513		
94	A-4	ⅡⅣ	宮古群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	正月のアヤグ	(3)2祭のアヤグ(多良間島)	徳山英子	CLS-5032		COCJ-34513		
95	A-5	ⅡⅣ	宮古群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	旅祈願のアヤグ	(1)旅来のアヤグ(池間島)	勝連朝子	CLS-5032		COCJ-34513		COC-40465

96	A-6	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	旅祈願のアヤグ	(2) 根間の主 (宮古島平良市)	古堅宗雄, 新里 敏	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	COC-40465
97	A-7	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(2) 行事音楽	ハーリー唄	仲屋マフナリヤのアヤグ (宮古島平良市)	仲間玄徳, 伊波義雄, 小塚恒栄	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	COC-40465
98	A-8	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(3) 舞踊音楽	クイチャー	(1) とうがに (兄 (宮古島平良市))	仲間玄徳, 小塚恒栄, 新城ミエ, 棚原メガ, 砂川マツ, 砂川玄幸	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	
99	A-9	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(3) 舞踊音楽	クイチャー	(2) 多良間よー (多良間島)	三浦賢勇, 徳山英子, 豊里キク	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	
100	B-1	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(4) 祝唄		(1) とうがにアヤグ (宮古島平良市)	古堅宗雄	CLS-5032		COCJ-34513	COC-40465
101	B-2	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(4) 祝唄		(2) かにすまがま (宮古島平良市)	仲間玄徳	CLS-5032		COCJ-34513	COC-40465
102	B-3	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(4) 祝唄		(3) 東間のフナガマ (宮古島平良市)	新城ミエ	CLS-5032		COCJ-34513	
103	B-4	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(4) 祝唄		(4) 家建ての唄 (多良間島)	三浦賢勇, 徳山英子, 立津春公, 立津豊子, 藤本定子	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	COC-40465
104	B-5	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(1) 宮国の姉がま (宮古島平良市)	新里敏, 鶴平名長光	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	COC-40465
105	B-6	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(2) 地間の主 (宮古島平良市)	金城順善	CLS-5032		COCJ-34513	
106	B-7	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(3) 平安名のマムヤ (宮古島平良市)	小塚恒栄	CLS-5032		COCJ-34513	COC-40465
107	B-8	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(4) 浦兼久のアヤグ (宮古島平良市)	吉村忠勝	CLS-5032		COCJ-34513	
108	B-9	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(5) 狩侯のイサミガ (宮古島平良市)	伊波義雄	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	COC-40465
109	B-10	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(6) 伊良部とうがに (宮古島平良市)	古堅宗雄	CLS-5032		COCJ-34513	COC-40465
110	B-11	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(7) 四島の主 (宮古島平良市)	仲宗根栄功	CLS-5032	COCF-10553	COCJ-34513	
111	A-1	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(8) 内根間のカナガマ (宮古島平良市)	新里 敏, 金城順善	CLS-5033		COCJ-34514	
112	A-2	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(9) 平安名のマチガマのアヤグ (宮古島平良市)	小塚恒栄, 砂川玄幸	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	COC-40465
113	A-3	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(10) 石嶺の道のアヤグ (宮古島平良市)	砂川寛明	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	
114	A-4	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(11) 貢織布納めのアヤグ (宮古島平良市)	砂川マツ	CLS-5033		COCJ-34514	COC-40465
115	A-5	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(12) 御崎郷の妻保那恋のアヤグ (宮古島平良市)	古堅宗雄, 古堅朋江	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	COC-40465
116	A-6	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(13) 汝夫や誰か (宮古島平良市)	棚原メガ	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	
117	A-7	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(14) 新藤の女校司のアヤグ (宮古島平良市)	新城ミエ	CLS-5033		COCJ-34514	
118	A-8	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(15) 来間ウスミガガマ (宮古島平良市)	棚原メガ	CLS-5033		COCJ-34514	
119	A-9	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(16) 米のあら (宮古島平良市)	吉村忠勝	CLS-5033		COCJ-34514	
120	A-10	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(17) 古見の主のアヤグ (宮古島平良市)	鶴平名長光	CLS-5033		COCJ-34514	
121	A-11	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(18) 島出でのアヤグ (池間島)	勝連朝子	CLS-5033		COCJ-34514	
122	A-12	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(19) 内間マグライ (池間島)	我那覇サカエ	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	
123	A-13	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(20) 佐良浜のハイマ (伊良部島)	譜久島マツ子	CLS-5033		COCJ-34514	COC-40465
124	B-1	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(21) 伊良部とうがに (宮古島平良市)	佐和田カニ	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	
125	B-2	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(22) 石嶺の赤う木 (伊良部島)	佐和田カニ	CLS-5033		COCJ-34514	COC-40465
126	B-3	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(23) マツガニアヤグ (伊良部島)	譜久島マツ子	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	
127	B-4	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(24) かなしやがまアヤグ (伊良部島)	譜久島マツ子	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	COC-40465
128	B-5	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(5) 雑歌		(25) 多良間しよなか (多良間島)	三浦賢勇	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	COC-40465
129	B-6	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(6) 労唄	機織場のアヤグ (池間島)	勝連キヨ, 勝連朝子	勝連キヨ, 勝連朝子	CLS-5033		COCJ-34514	
130	B-7	〈Ⅳ〉 宮古群島民俗芸能篇	(7) 船唄	池の女主豊貝唄 (池間島)	佐久本千代, 勝連キヨ	佐久本千代, 勝連キヨ	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514	COC-40465

131	B-8	〈V〉 宮古群島民俗芸能篇	(7)船唄	伊良部若のつかに親のアヤグ(池間島)	佐久本千代	CLS-5033		COCJ-34514		COC-40465
132	B-9	〈V〉 宮古群島民俗芸能篇	(8)わらべ唄	(1)子守歌(宮古島平良市)	古堅明江	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514		
133	B-10	〈V〉 宮古群島民俗芸能篇	(8)わらべ唄	(2)子守歌(多良間島)	徳山英子、豊里キク	CLS-5033		COCJ-34514		COC-40465
134	B-11	〈V〉 宮古群島民俗芸能篇	(8)わらべ唄	(3)子守歌(多良間島)	徳山英子	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514		COC-40465
135	B-12	〈V〉 宮古群島民俗芸能篇	(8)わらべ唄	(4)ひばりの唄(池間島)	佐久本洋子	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514		
136	B-13	〈V〉 宮古群島民俗芸能篇	(8)わらべ唄	(5)まりつき唄(池間島)	前泊亮子	CLS-5033	COCF-10553	COCJ-34514		
137	A-1	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(5)まりつき唄(池間島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツク、竹越堅一	CLS-5034		COCJ-34515		
138	A-2	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	正月ユンタ(黒島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツク、竹越堅一	CLS-5034		COCJ-34515		COC-40466
139	A-3	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(1)豊年願い唄(石垣島白保)	川平亀、川平節、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034	COCF-10554	COCJ-34515		COC-40466
140	A-4	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(2)にうすいの唄(石垣島白保)	川平亀、川平節、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		COC-40466
141	A-5	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(3)思いそ(石垣島白保)	川平亀、川平節、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		
142	A-6	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(4)サーヨイ(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		
143	A-7	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(5)あーりぬえうがら(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034	COCF-10554	COCJ-34515		
144	A-8	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(6)いんきやらぬ(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		COC-40466
145	A-9	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(7)与那覇主(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		
146	A-10	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(8)白保節(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		
147	A-11	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(9)夜雨節(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		
148	A-12	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(10)みるく節(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034	COCF-10554	COCJ-34515		
149	A-13	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(11)ヤーヨー一節(石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、川平節、新本米、新本善康、稲海亀、稲海ヨシ	CLS-5034		COCJ-34515		COC-40466
150	A-14	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(12)さんぐるる(竹富島)	亀井保文、亀井美佐、前新とよ、大山貞雄、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5034	COCF-10554	COCJ-34515		
151	A-15	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(13)トンチャー(竹富島)	亀井保文、亀井美佐、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5034		COCJ-34515		
152	B-1	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(14)道歌(竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本相良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5034		COCJ-34515		
153	B-2	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(15)みるく節(竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本相良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5034		COCJ-34515		
154	B-3	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(16)仲民田節(西表島祖納)	松山忠夫	CLS-5034		COCJ-34515		
155	B-4	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(17)みるく節(西表島祖納)	松山忠夫	CLS-5034		COCJ-34515		COC-40466
156	B-5	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(18)通行の唄(小浜島)	仲盛長扶、前仲真雄、大嵩秀雄、棚原長正、登野貞子、石垣ヒロ子、野底ヨネ	CLS-5034				
157	B-6	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(19)家入りの唄(小浜島)	仲盛長扶、前仲真雄、大嵩秀雄、棚原長正、登野貞子、石垣ヒロ子、野底ヨネ	CLS-5034				
158	B-7	〈V〉 八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	(20)踊の唄(小浜島)	仲盛長扶、前仲真雄、大嵩秀雄、棚原長正、登野貞子、石垣ヒロ子、野底ヨネ	CLS-5034				

159	B-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(21) 笠踊 (黒島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツク、竹越堅一	CLS-5034	COCF-10554	COCJ-34515	
160	B-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(22) 鎌踊 (黒島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツク、竹越堅一	CLS-5034	COCF-10554	COCJ-34515	
161	B-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(23) びゅーながれ (黒島)	仲底英敏、竹越堅一	CLS-5034		COCJ-34515	
162	B-11	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(24) ベンザ (黒島)	仲底英敏、竹越堅一	CLS-5034		COCJ-34515	
163	B-12	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(25) しらかがー (黒島)	仲底英敏、竹越堅一	CLS-5034		COCJ-34515	
164	A-1	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(26) 差踊 (黒島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツク、竹越堅一	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
165	A-2	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(27) たておどる (黒島)	仲底英敏、竹越堅一	CLS-5035		COCJ-34516	
166	A-3	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(28) アカマター出現の唄 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、新善一、本底佐武戸、横目熊弥、白保英昇	CLS-5035	COCF-10554		
167	A-4	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(29) 神入襲奪の唄 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、新善一、本底佐武戸、横目熊弥、白保英昇	CLS-5035	COCF-10554		
168	A-5	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(30) 巻踊 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、本底佐武戸、白保英昇	CLS-5035			
169	A-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(31) アカマター送りの唄 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、本底佐武戸、白保英昇	CLS-5035			
170	A-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(32) せぞいジラバ (鳩間島)	浦崎英行、田代 浩	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
171	A-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(33) せ揚ぎジラバ (鳩間島)	浦崎英行、田代 浩	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
172	A-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(34) 南風見ジラバ (鳩間島)	浦崎英行、田代 浩	CLS-5035		COCJ-34516	
173	A-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(35) 角皿の唄 (波照間島)	米盛善幸	CLS-5035		COCJ-34516	
174	A-11	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	豊年祭(徳利)	(36) 中皿の唄 (波照間島)	米盛善幸	CLS-5035		COCJ-34516	COC-40466
175	A-12	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	盆祭	(1) 阿弥陀仏 (小浜島)	仲盛長扶、大満秀雄、棚原長正	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
176	A-13	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	盆祭	(2) いへらんどうさ (小浜島)	仲盛長扶、前仲真雄、大満秀雄、棚原長正	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
177	B-1	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	結願祭	ダトダーの唄 (小浜島)	仲盛長扶、前仲真雄、大満秀雄、棚原長正、登野貞子、石垣ヒロ子、野底ヨネ	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
178	B-2	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(1) 御殿内(此殿内)主前ジラバ (石垣島川平)	島袋寛二、島袋清一、野底三郎	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
179	B-3	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(2) 大繁屋ジラバ (石垣島川平)	島袋寛二、島袋清一、野底三郎	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
180	B-4	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(3) びょーし (西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘	CLS-5035		COCJ-34516	
181	B-5	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(4) 今日の誇らしや (西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘、那根 文	CLS-5035		COCJ-34516	
182	B-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(5) 五尺でい (西表島祖納)	那根 文	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516	
183	B-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(6) ぐぐふち (西表島祖納)	那根 文	CLS-5035		COCJ-34516	
184	B-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(7) 今日が日 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、新善一、本底佐武戸、横目熊弥、白保英昇	CLS-5035		COCJ-34516	
185	B-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(8) 二月 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、新善一、本底佐武戸、横目熊弥、白保英昇	CLS-5035		COCJ-34516	COC-40466
186	B-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(9) 真謝乙女 (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、新善一、本底佐武戸、横目熊弥、白保英昇	CLS-5035		COCJ-34516	
187	B-11	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1) 祭祀音楽	節祭	(10) ウブヌビーダ (新城島)	兼浜静、大姉美枝、大姉良子、宇根文徳、安里ヨシ子、新善一、本底佐武戸、横目熊弥、白保英昇	CLS-5035		COCJ-34516	COC-40466

188	B-12	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(1)種子どりアヨウ (石垣島宮良)	亀井保文、亀井美佐、入仲本祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5035		COCJ-34516		
189	B-13	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(2)道頭 (竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516		
190	B-14	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(3)巻踊 (竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5035	COCF-10554	COCJ-34516		
191	B-15	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(4)月と世ば (竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5035		COCJ-34516		
192	A-1	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(5)稲が実の唄 (竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5036		COCJ-34517		
193	A-2	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	種子どり祭	(6)根強い唄 (竹富島)	亀井保文、亀井美佐、入仲本祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5036		COCJ-34517		
194	A-3	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	進水式	ばか輪ジラバ (与那国島比川)	前栗蔵マナビ、前栗蔵永渡、端西賢仁	CLS-5036		COCJ-34517		
195	A-4	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	雨乞い	(1)雨乞いのアヨウ (石垣島白保)	川平亀、川平節	CLS-5036	COCF-10554	COCJ-34517		
196	A-5	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	雨乞い	(2)雨乞いのアヤグ (与那国島祖納)	東浜正雄	CLS-5036		COCJ-34517		
197	A-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	旅祈願	(1)相平真道 (波照間島)	米盛善幸	CLS-5036		COCJ-34517		
198	A-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	旅祈願	(2)トグル嶺ジラバ (与那国島祖納)	東浜正雄	CLS-5036		COCJ-34517		
199	A-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	旅祈願	(3)うら船ジラバ (与那国島祖納)	東浜正雄	CLS-5036		COCJ-34517		
200	A-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	旅祈願	(4)旅御前風 (与那国島祖納)	錦田美恵	CLS-5036		COCJ-34517		
201	A-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(1)祭祀音楽	夜籠り	内原ぼーちゃ (石垣島川平)	島袋清一	CLS-5036		COCJ-34517		
202	A-11	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(2)舞踊音楽		獅子舞 (石垣島石垣)	石垣市登野城有志	CLS-5036	COCF-10554			
203	A-12	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(1)うぶんだ (与那国島比川)	与那元満慶	CLS-5036		COCJ-34517		
204	A-13	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(2)ちもやま (与那国島祖納)	後富村石戸	CLS-5036		COCJ-34517		
205	A-14	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(3)びら (鳩間島)	浦崎英七	CLS-5036		COCJ-34517		
206	B-1	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(4)種子時狂言 (竹富島)	入仲本祖良、加治工亀、大山貞雄、宇根松美、島仲長正、幸本広一	CLS-5036		COCJ-34517		
207	B-2	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(3)語りと狂言		(5)家造りのユングト (石垣島白保)	仲島一夫、新本善康、枳海亀	CLS-5036		COCJ-34517		
208	B-3	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(1)家造りの巻踊 (石垣島白保)	仲島玉、仲島一夫、川平亀、新本ヨネ、新本善康、枳海亀、枳海ヨシ	CLS-5036		COCJ-34517		
209	B-4	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(2)家たかびのジラバ(その一) (西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘、那根 武	CLS-5036		COCJ-34517		
210	B-5	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(3)家たかびのジラバ(その一) (西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘、那根 武	CLS-5036		COCJ-34517		
211	B-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(4)めでたい節 (石垣島宮良)	嵩原千代、川田正光、田盛宇津良、田盛春子	CLS-5036		COCJ-34517		
212	B-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(5)宮良橋節 (石垣島宮良)	嵩原千代、川田正光、添石美代子、田盛宇津良、田盛春子	CLS-5036		COCJ-34517		
213	B-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(6)しきた盆 (竹富島)	亀井美佐、入仲祖良、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、大真太郎、宇根松美、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5036		COCJ-34517		
214	B-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(7)田植唄 (西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘、那根 武	CLS-5036		COCJ-34517		
215	B-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(8)稲が実アヨウ (西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘、那根 武	CLS-5036		COCJ-34517		

216	A-1	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(9)米御酒のアヨウ(西表島祖納)	松山忠夫、那根 弘、那根 武	CLS-5037		COCJ-34518	
217	A-2	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(10)下原節(西表島祖納)	松山忠夫	CLS-5037		COCJ-34518	
218	A-3	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(11)小浜節(小浜島)	前仲貞雄、大嶺善三、野底ヨネ	CLS-5037		COCJ-34518	
219	A-4	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(12)夜雨節(波照間島)	米盛善幸	CLS-5037		COCJ-34518	
220	A-5	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(13)波照間島節(波照間島)	米盛善幸	CLS-5037		COCJ-34518	
221	A-6	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(14)鳩間中岡(鳩間島)	浦崎英七、浦崎英行	CLS-5037		COCJ-34518	
222	A-7	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(15)宮良口説(石垣島宮良)	川田正光、田嶋宇津良	CLS-5037		COCJ-34518	
223	A-8	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(16)黒島口説(黒島)	国吉長扶、大浜寛扶、大浜源吉、安佐井しげ、浦原とみ、玉代勤長伝	CLS-5037	COCF-10554	COCJ-34518	COC-40466
224	A-9	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(17)波照間口説(波照間島)	米盛善幸	CLS-5037		COCJ-34518	
225	B-1	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(18)伊武田口説(鳩間島)	浦崎英七、田代浩	CLS-5037		COCJ-34518	
226	B-2	〇	八重山群島民俗芸能篇	(4)祝唄		(19)与那国口説(与那国島祖納)	富里ヤス子	CLS-5037		COCJ-34518	
227	B-3	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(1)しんだすり節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、稲海ヨシ	CLS-5037	COCF-10554	COCJ-34518	
228	B-4	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(2)ぼすだすり節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、稲海ヨシ	CLS-5037	COCF-10554	COCJ-34518	
229	B-5	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(3)親廻り節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、稲海ヨシ	CLS-5037	COCF-10554	COCJ-34518	
230	B-6	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(4)いやり節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、稲海ヨシ	CLS-5037		COCJ-34518	
231	B-7	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(5)大田節(石垣島白保)	仲島一夫、新本 米	CLS-5037		COCJ-34518	
232	B-8	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(6)ニオとらぬ(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫	CLS-5037	COCF-10554	COCJ-34518	
233	B-9	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(7)久高節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、稲海ヨシ	CLS-5037		COCJ-34518	COC-40466
234	B-10	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(8)しびらおーぞ節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、稲海ヨシ	CLS-5037		COCJ-34518	COC-40466
235	B-11	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(9)大原越地節(石垣島川平)	島袋寛二、野底三郎	CLS-5037		COCJ-34518	
236	B-12	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(10)まさかい節(竹富島)	入仲本祖良、宇根松美、幸本広一	CLS-5037	COCF-10554	COCJ-34518	
237	A-1	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(11)祖納岳節(西表島祖納)	那根 弘	CLS-5038		COCJ-34519	
238	A-2	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(12)丸間盆山(西表島祖納)	那根 弘	CLS-5038		COCJ-34519	COC-40466
239	A-3	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(13)殿様節(西表島祖納)	那根 弘	CLS-5038	COCF-10554	COCJ-34519	
240	A-4	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(14)成屋ソシケマ(西表島祖納)	那根 弘	CLS-5038		COCJ-34519	
241	A-5	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(15)真山節(西表島祖納)	那根 弘	CLS-5038		COCJ-34519	COC-40466
242	A-6	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(16)ベンガンとれ(黒島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツグ、竹越堅	CLS-5038	COCF-10554	COCJ-34519	
243	A-7	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(17)マンガニスツア(黒島)	仲底ヤマト、仲底英敏、前舟通ウツグ、竹越堅	CLS-5038		COCJ-34519	COC-40466
244	A-8	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(18)新城島の前の海の歌(新城島)	大舩美枝、大舩良子、本底佐武戸	CLS-5038	COCF-10554	COCJ-34519	COC-40466
245	A-9	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(19)越頂節(新城島)	兼浜静、大舩美枝、大舩良子、安里ヨシ子、本底佐武戸、横目熊弥	CLS-5038		COCJ-34519	
246	A-10	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(20)たかにく節(新城島)	兼浜静、大舩美枝、大舩良子、安里ヨシ子、本底佐武戸	CLS-5038		COCJ-34519	
247	A-11	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(21)鳩間元ジラバ(鳩間島)	浦崎英七	CLS-5038		COCJ-34519	
248	B-1	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(22)船迎唄(与那国島比川)	浦崎英七	CLS-5038		COCJ-34519	
249	B-2	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(23)なかなん節(与那国島祖納)	仲本とみ、富里ヤス子	CLS-5038		COCJ-34519	
250	B-3	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(24)かみんぐばた(与那国島祖納)	仲本とみ、富里ヤス子	CLS-5038		COCJ-34519	
251	B-4	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(25)与那国の猫小(与那国島祖納)	富里ヤス子	CLS-5038		COCJ-34519	
252	B-5	〇	八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(26)ドナンとばるま(与那国島祖納)	田島照三	CLS-5038		COCJ-34519	

253	B-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(27)ドナンすんかに(与那国島祖納)	仲本とみ、富里ヤス子	CLS-5038		COCJ-34519		
254	B-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(5)雑歌		(28)どないど(与那国島祖納)	仲本とみ	CLS-5038		COCJ-34519		
255	B-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(1)勇船ジラバ(石垣島宮良)	川田久吉、川田正光、東成底光秀、田盛宇津良、田盛春子、高原千代	CLS-5038		COCJ-34519		
256	B-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(2)ばがタロウマ(石垣島宮良)	川田久吉、東成底光秀、東成底千代子、添石美代子	CLS-5038		COCJ-34519		
257	B-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(3)んざとーり(石垣島宮良)	川田久吉、東成底光秀、東成底千代子、添石みち	CLS-5038		COCJ-34519		
258	A-1	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(4)船の親(石垣島宮良)	前盛義英、高原千代、川田正光、東成底光秀、田盛宇津良、田盛春子	CLS-5039		COCJ-34520		
259	A-2	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(5)まへらつユンタ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039		COCJ-34520		
260	A-3	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(6)富崎野うすな(石垣島石垣)	高原千代、川田正光、田盛宇津良、田盛春子	CLS-5039		COCJ-34520		
261	A-4	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(7)山原ユンタ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		
262	A-5	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(8)安里屋ユンタ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		COC-40466
263	A-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(9)コイナーユンタ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		COC-40466
264	A-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(10)南七つん星(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		COC-40466
265	A-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(11)猪ユンタ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		COC-40466
266	A-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(12)首里つユンタ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039		COCJ-34520		
267	A-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(13)古見の浦のブナレーマ(石垣島石垣)	大浜マス、大浜賢扶、新城ムツ、本部ツル、玉代勢長伝	CLS-5039		COCJ-34520		
268	B-1	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(14)結びのたんごま(竹富島)	亀井保文、亀井美佐、前新とよ、加治工亀、大山貞雄、島仲長正、幸本広一、東盛とみ	CLS-5039		COCJ-34520		COC-40466
269	B-2	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(15)みらぬ唄(与那国島祖納)	東浜正雄	CLS-5039		COCJ-34520		
270	B-3	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(16)はいきだデラバ(与那国島祖納)	本竹秀三	CLS-5039		COCJ-34520		
271	B-4	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(6)労作唄		(17)まだかやデラバ(与那国島祖納)	本竹秀三、東浜正雄	CLS-5039		COCJ-34520		
272	B-5	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(1)チヨーガ節(石垣島白保)	仲島 玉、仲島一夫、新本 米、狩海ヨシ	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		
273	B-6	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(2)屋の子守歌(石垣島石垣)	大浜賢扶	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		
274	B-7	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(3)夜の子守歌(石垣島石垣)	玉代勢長伝	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		
275	B-8	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(4)あがろうざ(小浜島)	仲盛長扶、前仲貞雄、大崎秀雄、棚原長正、登野貞子、石垣ヒロ子、野底ヨネ	CLS-5039	COCF-10554	COCJ-34520		
276	B-9	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(5)子守歌(与那国島祖納)	富里ヤス子	CLS-5039		COCJ-34520		
277	B-10	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(6)子守歌(与那国島比川)	鹿川とし	CLS-5039		COCJ-34520		
278	B-11	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(7)わらべ唄(石垣島白保)	仲島 玉、新本 米、狩海ヨシ	CLS-5039		COCJ-34520		
279	B-12	＜＞八重山群島民俗芸能篇	(7)わらべ唄		(8)わらべ唄(5曲)(与那国島祖納)	富里ヤス子	CLS-5039		COCJ-34520		

表7 LP集『沖縄音楽総攬』民俗芸能・文化財・関連年表 作成:高橋美樹

年月日	沖縄	日本本土
1921年	1月-2月 柳田国男, 沖縄調査。7月-8月 折口信夫, 沖縄調査	
1922年	7月-8月 田辺尚雄, 沖縄本島・八重山諸島の音楽調査	柳田国男, 南島談話会発足
1923年	7月-9月 折口信夫, 沖縄本島, 宮古島, 石垣島調査	
1927年		「民俗芸術の会」設立
1928年		『民俗芸術』『民俗芸術の会』機関誌創刊(1928-1932) 『旅と伝説』創刊(1巻1号〜17巻1号:1928-1944) 4月13日-15日「第3回郷土舞踊と民謡の会」(於:日本青年館, 朝日新聞社講堂)で八重山芸能公演
1929年		伊波普猷『校註琉球戯曲集』春陽堂(東京) 刊行
1931年		8月6日「琉球舞踊古典劇公演会」民俗芸術の会主催(於:日本青年館)
1934年		日本民俗協会設立, 機関誌『日本民俗』(1935-1938) 日本放送協会編『日本民謡大観(関東篇)』刊行:町田嘉章
1936年		5月「琉球古典芸能大会」日本民俗協会主催(於:日本青年館)
1943年		4月, 芸能学会設立(折口信夫が提唱)
1948年		5月, 東京で「沖縄芸能保存会」結成 11月9日-11日「東京:沖縄芸能保存会第1回公演」(於:読売会館ホール)
1950年		三隅治雄:国学院大学国文科卒業 8月29日「文化財保護法」施行 本田安次, 文化財保護審議会専門委員(〜1986年7月) 「第1回 全国郷土芸能大会」開催(主催:文部省芸術祭執行委員会)
1951年		4月29日「沖縄諸島の古謡と踊の会」(於:早稲田大学大隈講堂)開催。 主催:民俗芸能の会。企画・歌詞解説:本田安次 「第2回 全国郷土芸能大会」開催(主催:日本青年館)
1952年		三隅治雄:東京文化財研究所に入職 8月, 国立博物館附属美術研究所は美術部・芸能部・保存科学部・庶務室を設置。芸能部に郷土芸能研究室を設け, 三隅と池田弥三郎が担う。 「民俗芸能の会」設立, 機関誌『芸能復興』創刊(1〜19号:1952-1958) 9月, 沖縄民俗芸能を川崎市無形文化財に指定。
1953年		11月30日 沖縄芸能文化使節団「琉球国劇公演」第8回文部省芸術祭参加(於:日比谷公会堂) 後援:文部省文化財保護委員会, 毎日新聞社
1954年	6月29日, 琉球政府文化財保護委員会が文化財保護法を施行	3月, 沖縄民俗芸能が神奈川県無形文化財に指定 7月, 東京文化財研究所は「東京国立文化財研究所」と改称
1956年	島袋盛敏・比嘉春潮他編『琉球芸能全集第1(琉球の民謡と舞踊 1)』刊行 10月, 八重山民謡, 琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財	11月2日-3日「第7回全国郷土芸能大会」『八重山歌舞団』出演 (於:日本青年館)大浜津呂, 大浜安伴他, 盆あんがま, 鳩間節など
1957年	5月, 琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に, 湛水流音楽, 八重山の太鼓, 八重山の大胴小胴	
1958年	5月, 琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に, 首里汀良の獅子舞, 伊集の打花鼓, 泡瀬の京太郎 ◆8月20日-9月10日 本田安次, 三隅治雄, 沖縄芸能の現地調査	4月, 第5回沖縄文化講座, 三隅治雄「郷土芸能について」 (於:川崎市立中央図書館) 『日本民俗学大系』9巻「芸能と娯楽」篇刊行「沖縄の芸能」本田安次
	8月24日講演「沖縄芸能について」本田安次, 琉球古典芸能鑑賞会(於:沖縄タイムスホール)/9月4日講演「日本芸能と琉球芸能」三隅治雄, 創作舞踊観賞会(本田と三隅来島招聘)(於:沖縄タイムスホール)	10月4日 沖縄芸能同人会第7回研究例会(於:沖縄屋(新橋))三隅治雄「沖縄に旅して」, 東京文化財研究所創立5周年記念「日琉交歓舞踊発表会」14演目・出演者決定
1959年	琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に, 組踊「執心鐘入」 8月13日 早稲田大学第1次八重山学術調査団来島(代表:滝口宏)。本田安次, 八重山学術調査団に参加	「全国郷土芸能大会」を「全国民俗芸能大会」と改称開催 1月24日 東洋音楽学会第69回例会, 三隅治雄「沖縄芸能の現状」 2月-7月 三隅治雄「報告・沖縄の芸能」南島消息(1)〜(5)-『芸能』
1960年	3月28日-4月4日 文部省文化財保護委員会第一次文化財調査団を沖縄へ派遣。黒坂昌夫調査官は史跡天然記念物, 李正夫技官は建造物調査。 30日「お冠船踊り」鑑賞。組踊「森川の子(花売の縁)」や舞踊。野村流参加 12月, 琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に, 組踊「執心鐘入」, 八重山民俗芸能(徳利踊)	10月, 芸術祭15周年記念主催公演「第11回全国民俗芸能大会」 『八重山の歌と踊り』(於:日本青年館)
1961年		5月, LP『昭和35年芸術祭15周年記念公演「民俗芸能(三)(四) 八重山の歌と踊り』(於:日本青年館) コロムビア発売
1962年	3月-4月 文部省文化財保護委員会は沖縄の文化財保護行政・民俗芸能調査のため, 清水康平事務局長と森晋無形文化課課長補佐を沖縄へ派遣 「民俗芸能の公演」琉球政府創立10周年記念:琉球政府文化財保護委員会主催, 4月2日〜3日 沖縄タイムスホール, 4月4日 コザ琉米親善センター	『民俗芸能』再刊(『芸能復興』を改題) 本田安次『南島探訪記』明善堂書店, 刊行
1963年	琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に, 南の島踊	「芸能史研究会」設立, 雑誌『芸能史研究』創刊 LP『日本民俗芸能系譜:神楽・田楽と風流』発売(コロムビア) 企画・監輯:森垣二郎, 解説:三隅治雄/昭和38年度第18回芸術祭賞

1964年	琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に、組踊「花売の縁」	
	◆11月7日沖縄・宮古・八重山諸島の民謡録音のため、森垣二郎(コロムビア)、ナミ夫人、三隅治雄、小林喜久之助、日暮怜司が来島	
	11月8日森垣ら一行5人は沖縄本島で古典音楽の録音	
	11月9日森垣ら一行5人は、宮古・八重山諸島(石垣島、黒島、西表島、竹富島)で録音。八重山で約300曲収録。宮古諸島で45曲収録	
	11月18日森垣ら一行5人は空路で沖縄本島に戻り、録音	
	11月25日ラジオ沖縄スタジオで東風平村富盛「ウスデーク」他録音。首里の古謡録音。首里城西小学校の児童:わらべ歌録音。三隅は帰京	
	11月28日森垣ら一行4人は午後6時頃、那覇発の日航機で帰京	
1965年	◆6月29日-7月16日コロムビアの日暮と二見は沖縄本島で70曲、八重山諸島で80曲収録	◆11月20日LP集『沖縄音楽総攬』発売(コロムビア)企画・監修:森垣二郎、解説 三隅治雄/昭和40年度第20回芸術祭・奨励賞受賞
	琉球政府・助成の措置を講じた無形文化財に、組踊「手水の縁」 10月、琉球組踊保存会を結成、会長は真境名由康	
1966年	2月、琉球組踊保存会「大川敵討」上演	5月28日東洋音楽学会第26回関西支部定例研究会(於:相愛女子大学) [2]レコード紹介(1)『沖縄音楽総攬』井野辺潔
	◆12月18日琉球政府文化財保護委員会招聘で三隅治雄来沖。琉球古典舞踊上演(於:国立劇場)の演出打合わせ。26日久高島イザイホール調査	11月、国立劇場開場(東京都千代田区豊町)。大劇場、小劇場
1967年	1月、沖縄放送局、記録映画「万才敵討」作成	
	3月、琉球組踊保存会『組踊研究』創刊号出版	
	4月、琉球政府文化財保護委員会、記録映画「執心鐘入」「花売の縁」	1月26日-29日第1回琉球舞踊公演「御冠船踊」(於:国立劇場小劇場) 制作:西角井正大、監修:本田安次、演出:三隅治雄
	6月、琉球政府文化財保護委員会、組踊(玉城朝薫作「執心鐘入」「二童敵討」「銘苅子」「孝行の巻」「女物狂」)を重要無形文化財に指定	
1968年		2月24日-25日第2回琉球芸能公演「琉球歌劇」(於:国立劇場大劇場) 演出:三隅治雄・仲井真元樞
1969年		2月、三隅治雄編『沖縄の芸能』邦楽と舞踊出版部、刊行
		7月、沖縄歌舞団第1回本土縦断公演「太陽の燃える島」三隅構成・演出
1970年		9月、沖縄歌舞団 ソ連・ポーランド公演「太陽の燃える島」三隅構成・演出
1972年	5月15日、沖縄県、日本本土へ復帰/組踊、国の重要無形文化財に指定 12月、沖縄伝統音楽、湛水流・安富祖流・野村流、沖縄県の無形文化財に指定	真栄田義見・三隅治雄・源武雄編『沖縄文化史辞典』刊行 琉球政府文化財保護委員会監修、東京堂出版
		◆三隅治雄1972「沖縄の民族芸能の分布とその分類」『人類科学』24集
		3月24日-26日第3回琉球芸能公演「御冠船踊と琉球歌劇」 (於:国立劇場小劇場)監修:本田安次、構成:三隅治雄
		三隅治雄『原日本おきなわ:その歴史と芸能』第三文明社、刊行
1974年		1月25日-26日第4回琉球芸能公演「組踊と雑踊」(於:国立劇場小劇場) 監修:三隅治雄、制作担当:西角井正大
1975年		沖縄歌舞団 南米公演「太陽の燃える島」三隅構成・演出
1976年		3月、沖縄民俗芸能が神奈川県無形民俗文化財に指定
		7月、三隅治雄『芸能史の民俗的研究』東京堂出版、刊行
1977年	5月、竹富島の種子取、国の重要無形民俗文化財に指定	
1978年		三隅治雄・萩原秀三郎編『祭りと芸能の旅 6:九州・沖縄』刊行
1979年		沖縄歌舞団ソ連・ヨーロッパ公演「太陽の燃える島」三隅構成・演出
1980年	3月、泡瀬の京太郎、沖縄県の無形民俗文化財に指定	1月19日-20日第5回琉球芸能公演「御冠船踊と雑踊」 (於:国立劇場小劇場)制作:西角井正大
1981年		仲井幸二郎・西角井正大・三隅治雄編『民俗芸能辞典』刊行
		10月-11月 沖縄歌舞団 北米・イギリス公演「太陽の燃える島」三隅構成・演出
1982年		三隅治雄編著『日本の祭り8:九州・沖縄』講談社、刊行
1983年	3月、八重山古典民謡、沖縄県の無形文化財に指定	
1984年		民俗芸能学会設立
1985年	10月、伊集の打花鼓、沖縄県の無形民俗文化財に指定	3月20日-21日第6回琉球芸能公演「御冠船踊と創作の会」 (於:国立劇場小劇場)制作担当:西角井正大
		3月23日-24日第1回琉球芸能公演「御冠船踊」(於:国立劇場文楽劇場) 制作担当:西角井正大・古谷忠弘
1986年	沖縄県立芸術大学開学	10月31日-11月1日第1回沖縄の芸能公演「八重山の舞踊と沖縄歌劇」 (於:国立劇場小劇場)国立劇場開場20周年記念、制作:西角井正大
1991年	2月、西表島の節祭、国の重要無形民俗文化財に指定	
1993年		CD『甞る沖縄の歌ごえ』『宮廷音楽・沖縄本島編』『宮古・八重山諸島編』 発売(コロムビア) ➤LP『沖縄音楽総攬』より収録

2001年		3月10日-11日第9回琉球芸能公演「琉球王朝の芸能一戌の御冠船踊」 (於:国立劇場小劇場)制作:茂木仁史,指導:宮城能鳳,制作協力:大城學
2002年	1月,湧川の路次楽,沖縄県の無形民俗文化財に指定	「ムリカ星ゆんた」琉舞創作ロシア公演 ACO沖縄 三隅治雄 6月8日-9日第10回琉球芸能公演「琉球舞踊」(於:国立劇場小劇場) 制作:田部真弘・渡貫一志,協力:大城學
2003年		「南海のムリカ星」ロシア公演 ACO沖縄 三隅治雄
2004年	11月,国立劇場おきなわ開場(沖縄県浦添市)	
2005年		「南海のムリカ星」韓国公演 ACO沖縄 三隅治雄
2007年	3月,小浜島の盆・結願祭・種子取祭の芸能,国の重要無形民俗文化財に指定	CD『沖縄音楽総攬』(上下16枚組)発売(コロムビア)解説:大城學
2008年		CD『SP盤復元による沖縄音楽の精髓 1~4』発売(コロムビア)
2009年		1月24日-25日第11回琉球芸能公演「おきなわ芸能の今,そしてこれから」 (於:国立劇場小劇場)国立劇場おきなわ開場5周年記念,制作協力:大城學,制作:安藤裕之・香取麻貴
2010年		組踊,ユネスコ無形文化遺産に登録
2011年		三隅治雄『原日本・沖縄の民俗と芸能史』沖縄タイムス社,刊行
2018年		CD『かなす』シリーズ発売(コロムビア)
2019年		3月9日第19回琉球芸能公演「組踊と琉球舞踊」(於:国立劇場大劇場) 国立劇場おきなわ開場15周年記念,組踊上演300周年記念実行委員会 共催事業,制作:日本芸術文化振興会
2021年	2月18日歌舞劇「沖縄燦爛」(三隅治雄作・演出)那覇市パレット市民劇場で上演	9月,沖縄本土復帰50周年記念「沖縄芸能エンターテインメント・ショー 『レキオス!〜ぼくたちの大航海〜』(原作・三隅治雄,演出・平田大一) 全国公演開始。企画・制作:MIN-ON 民主音楽協会

